Shoei-System

Users MANUAL

有限会社 笑栄システム

【 はじめに 】

このたびは弊社製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。
本書は、お買い上げ頂いた製品の使用方法や接続方法、機能などについてのご説明をしております。
ご使用の前に必ずお読み下さい。
弊社製品によって、お客様の生活がいっそう便利なものとなりますよう心からお祈り致します。

【 安全上の注意 ＜必ず守って頂くようお願いします＞ 】

・ご使用の前に、安全上の注意をよくお読みの上、正しくご使用下さい。
・この項に記載しております注意事項、警告表示には、使用者や第三者への肉体的危害や財産への損害を未然に防ぐ内容を含んでおりますので、必ずご理解の上、守って頂くようお願いいたします。

■次の表示区分に関しましては、表示内容を守らなかった場合に生じる危害、または損害程度を表します。

⚠ 警告	この表示で記載された文章を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性を想定した内容を示します。
⚠ 注意	この表示で記載された文章を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害ないし物的障害を負う可能性を想定した内容を示します。

⚠ 警告

■煙が出る、異音がする、異音がでる
煙が出る、異音がする、異音がでるときはすぐに機器の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて弊社サポートセンターまでご連絡下さい。
■機器の分解、改造をしない
機器の分解、改造をすることは火災や感電の原因となります。
点検及び修理は、弊社サポートセンターまでご連絡下さい。
■機器の内部に異物や水を入れない
筐体のすきまから内部に異物や水が入った場合は、すぐに機器の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて弊社サポートセンターまでご連絡下さい。
■湿気や水気のある場所では使用しない
台所や風呂場などの、湿気や水気のある場所では使用しないで下さい。機器の故障や、火災の原因となります。
■不安定な場所に機器を置かない
ぐらついた台の上や傾いた場所、不安定な場所に機器を置かないで下さい。落ちたり、倒れたりしてけがの原因になることがあります。そのまま使用されると火災の原因になる可能性があります。
■電源の指定許容範囲を守る
機器指定の電圧許容範囲を必ず守って下さい。定格を越えた電圧での使用は火災や感電、故障の原因となります。
■電源コード、接続コードの取り扱いについて
電源コード、接続コードの上に機器本体や重い物を置いたり、釘などで固定すると傷ついて芯線の露出や断線などによる火災や感電の原因になったり、機器の故障につながりますので必ず避けて下さい。また、足を引っかける恐れのある位置等には設置しないで下さい。
■雷が鳴り出したら電源コードに触れないで下さい。
感電したり火災の原因となります。
■ぬれた手で機器に触らない
ぬれたままの手で機器に触れないで下さい。感電や故障の原因になります。

⚠ 注意

■設置場所に関しての注意事項
以下の様な場所に置くと火災や感電、または故障の原因となります。
・熱、暖房器具（ストーブ、アイロン、ヒーター等）の近く
・油煙や湯気のあたる調理台、加湿器等湿気の近く等ほこりや湿気の多い場所。
・直射日光のあたる場所。
■長期間使用しない場合は接続コードを外してください
長期間使用しない場合は接続コードを外して保管してください。
■機器を移動するときは接続コード類をすべて外してください。
移動する際は必ず接続コードを外して行って下さい。接続したままの移動はコードの断線などの原因となります。
■小さいお子様を近づけない。
お子様が機器に乗ったりしないよう、ご注意ください。怪我などの原因になることがあります。
■静電気にご注意ください。
本製品は精密電子機器ですので静電気を与えると、誤動作や故障の原因となります。

【 制限事項 】

・本書内容の欠陥または不正確性により生じた損害や破損については一切の責任を負わないものとします。
・本書によって生じたトラブルの責任には応じかねますのでご留意下さい。
・本書の内容の一部または全部を無断記載することは禁じられています。
・本製品を使用することによって生じた直接、間接の損害、データの消失等については、弊社では一切その責任を負いません。
・弊社製品は基本的に１年間保証となっておりますが、弊社の責任以外での損害、火災や地震、第三者による行為やその他の事故、お客様の故意または過失、誤用、分解、改造、本書の使用方法を守らないもの、その他異常な条件での使用などにより生じた損害、損傷に関しましては、弊社では一切の責任を負いません。
・弊社商品の使用または使用不能から生じた付随的な損害（記憶内容の変化や消失、事業利益の損失や、事業の中断、事業の中断からなる損害など）に関して、弊社では一切の責任を負いません。
・弊社が関与しない接続機器や、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関して弊社では一切の責任を負いません。
・本製品は、医療機器、原子力機器、航空宇宙機器、など人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備、機器での使用は意図されておりません。このような環境下での使用に関しては一切の責任を負いません。
・ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは誤動作することがあります。必ず離してご使用下さい。
・本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内での使用を前提としており、日本国外で使用された場合の責任は負いかねます。
・本書に記載されている内容は参考のために提供されるものであり、製造元、販売店の責務を保証するものではありません。
・本書に記載される商標および商品名は、各社の著作権及び／または登録商標です。これらは識別目的のみに記載されるものであり、これらの製品や製造元の保証を提示するものではありません。

【 ご使用の前に 】

・本書の内容等に関しましては、将来予告なしに変更することがあります。
・本書の内容に関しましては、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点や誤りなどお気づきのことがありましたら、弊社サポートセンターまでご連絡頂きます様お願い致します。
・本製品を使用することによって生じた直接、間接の損害、データの消失等については、弊社では一切その責を負いません。
・Windows は Microsoft Corporation の登録商標です。
・改良のため、予告なく仕様を変更することがあります。

【 商標 】

・intel 及び Pentium/Celeron は Intel 社の登録商標です。
・Windows は Microsoft 社の登録商標です。
・その他製品などの固有名詞は各社の商標または登録商標です。

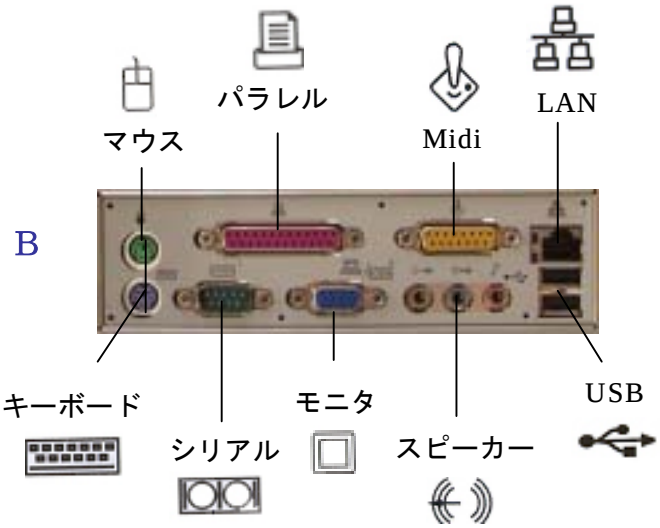
【 付属品の確認 】

付属品が全て揃っているか確認して下さい。万一足りない場合や、ご購入したものが異なっていた場合には、お手数ですが、弊社サポートセンターまでご連絡頂きます様お願い致します。

【 コンピュータの接続方法 】

コンピュータには、大きく分類して、机の上に据置きして使う「デスクトップ型」と、持ち運びが出来る「ノート型」があります。見た目の形状など多くの種類が存在しますが、基本的な規格はほとんど統一されています。

≪デスクトップ型≫

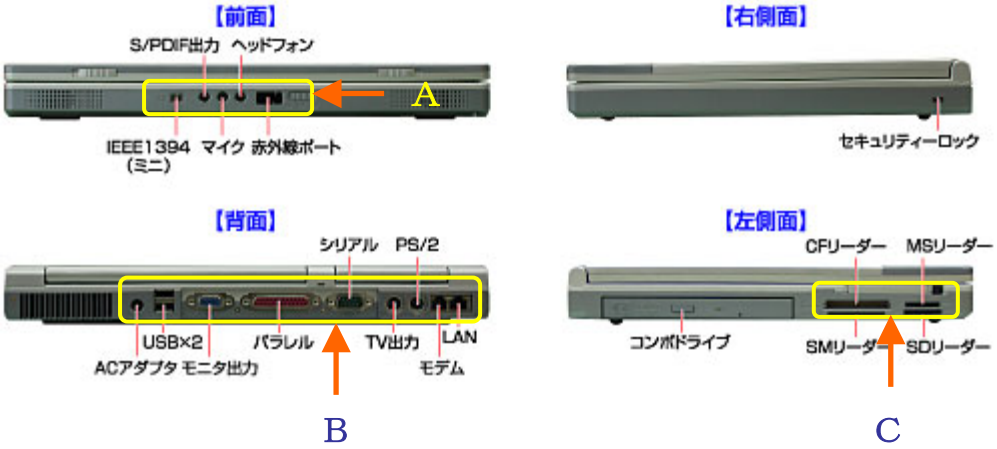


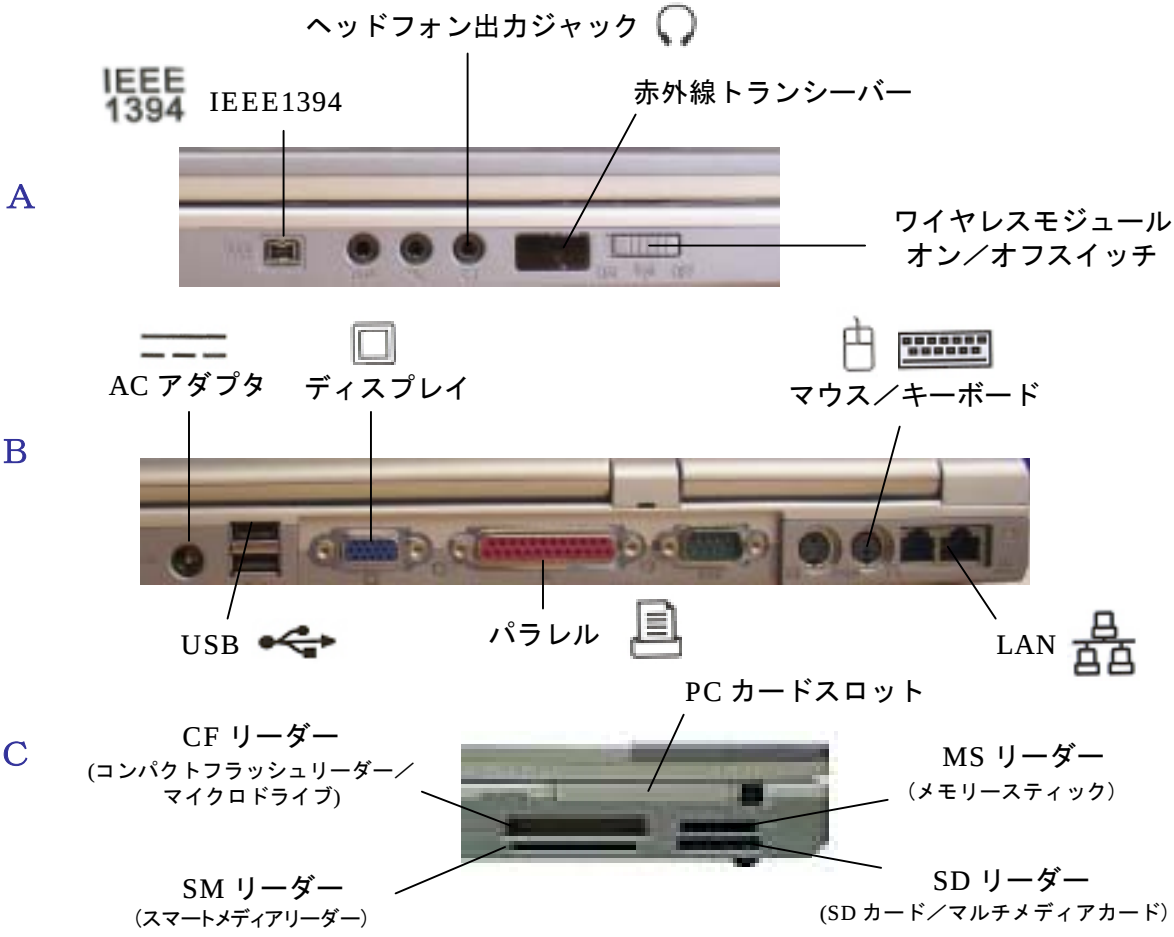
多くのコンピューターには背面にＩＯパネルと呼ばれる接続部があります。キーボード、マウス、ディスプレイなどは、全てそこに接続します。現在のコンピューターは、色分けされているものも多く、接続が分かりやすくなっていますが、コンピューターによっては位置や配置も異なります。上図Ｂを参考に、ディスプレイおよび、キーボード、マウスなどを定められた箇所に接続します。

【 ポイント 】

電源ケーブルは安全のため、最後に接続しましょう。接続の際にはコネクターの向きや形状には十分注意してください。接続しにくい場合は無理して挿し込まずにもう一度挿し込んでいる場所が正しいかどうか確認を行って下さい。

≪ノート型≫





ノート型の場合は、ディスプレイ、キーボードなどが一体型となり、マウスの代わりにタッチパットと呼ばれる入力デバイスが用意されています。ＡＣアダプタの接続位置を確認し、ＡＣアダプタを接続します。

【 ポイント 】

ノート型はデスク型に比べて、接続するものが少なく簡単です。タッチパットが使いにくい場合には、必要に応じて別売りのマウスを接続する事も出来ます。

【 コンピューターの基本機能 】

多くのコンピューターの背面にはＩ/0 パネルと呼ばれる接続部があります。本体と周辺機器とのデータの送受信を行うために使う窓口となります。別名「入出力ポート」とも呼ばれています。ディスプレイやマウス、キーボードなどの周辺機器などを接続します。
それぞれに挿し込み口やコネクタ形状が異なりますので間違えないように注意してください。現在のコンピュータは色分けされており、接続が分かりやすくなっています。また、挿し込み口付近には、コネクタ形状の意味を示すアイコンが表示されており、間違えて接続しないようにするための工夫が施されています。
各種アイコンの詳細は、[各部コネクタ／アイコンの詳細]を確認して下さい。

【 各部コネクタ／アイコンの詳細 】

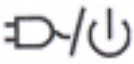
≪各部コネクタ／アイコン詳細≫

ディスプレイコネク 		ディスプレイ（モニター）を接続します。		
D-Sub 15 ピン･コネクタ 		PC-9801／Macintosh シリーズで使われている映像信号用コネクタ。このコネクタを搭載したディスプレイは、コネクタ変換アダプタ／ケーブルを使えば PC/AT 互換機でも使えることがある。MIDI／ゲーム・ポートとコネクタ形状がまったく同じなので、間違えて接続しないようにしてください。		
PS/2 マウスコネクタ 		マウスを接続します。	形状は６ピンのミニDIN規格で、キーボード、マウスとも同じ形状をしています。ただし、緑色がマウス、紫色がキーボードに定められています。色別されてない場合は、その機能を示すアイコンアイコンが表示されています。	
PS/2 キーボードコネクタ 		キーボードを接続します。		
パラレルポート(25 ピン) 		通称「プリンタポート」とも呼ばれ、プリンタなどの接続に使われます。		
シリアルポート(9 ピン) 		マウスを接続します。PS/2 マウスが普及する以前は、シリアルマウスを接続する標準インターフェースとして使われています。		
スピーカー入出力端子 			外部スピーカー出力	緑が、青が、赤が。色分けされていない場合は、アイコンを確認して接続して下さい。
			オーディオ機器からの入力	
			外部スピーカー出力	

≪各部コネクタ／アイコン詳細≫

IEEE1394 4 ピン　6 ピン 	IEEE 1394	次世代の高速な SCSI 規格。転送速度は 100Mbps、200Mbps、400Mbps が規格化されている。デジタルカメラの外部出力端子(業界は「DV 端子」と呼称)に採用されている。愛称は「FireWire」で、ソニーが iLink と呼んでいる規格も IEEE1394 です。
USB コネクタ シリーズ A　シリーズ B　ミニ シリーズ B 		キーボードやマウス、モデム、ジョイスティック、デジタルカメラ、CD-R などの周辺機器とパソコンを結ぶデータ伝送路の規格の一つです。現在は従来の USB1.1(1.5Mbps)からバージョンアップしてさらに高いデータ転送速度の USB2.0(480Mbps)規格が普及している。
LAN ポート 		インターネットの際に最も多く使われるポートです。CATV や ADSL といったブロードバンド通信の接続に LAN ケーブルを通して接続します。また、パソコンやプリンタなどを接続して、データの共有など、データをやり取りするのに使います。
モデムポート 		電話回線を通じて聞こえてくる音声データをディジタルデータに変換したり、ディジタルデータを音声信号に変換したりします。ダイアルアップ接続のインターネットなどに使用します。
ヘッドフォン出力ジャック		ヘッドフォン、スピーカーを、このジャックに接続します。
ワイヤレスモジュール オン/オフスイッチ		802.11b ワイヤレス LAN モジュールや Bluetooth モジュールをスイッチによって切り替えることができます。モジュールを有効にするには、ドライバ、ソフトウェアなどのインストールが必要となります。
ＤＣインジャック		AC アダプタの接続口。
セキュリティ ロックスロット		コンピュータを盗難から守るため、Kensington タイプのロックを接続することができます。
マイクロフォン 入力ジャック		マイクロフォンをこのジャックを通して使用します。
S/PDIF 出力ポート		S/PIF(Sony/Philips デジタルインターフェース形式)出力に使用できます。音声のデジタル信号を入出力するための機器間のインターフェース規格。Dolby AC-3 対応レシーバーに接続すると、”5.1”または”dts”サラウンドサウンドを楽しめます。
S ビデオポート		コンピュータが表示する映像を TV に出力することができます。接続にはＳビデオケーブルが必要です。

≪各部コネクタ／アイコン詳細≫

LED 電源 &通信インジケータ 		緑	コンピュータの電源がオンになっています
		緑で点滅	システムがスタンバイ状態にあります
		オレンジ	バッテリー充電中です
		緑	バッテリー充電が完了しました
		オレンジ点滅	バッテリー残量が残り少なくなっています
		半分オレンジ/半分緑で点滅	バッテリーに深刻な問題があります
		緑で点滅	新着メールがあります
		緑で速く点滅	ユーザー定義の自動メールチェッカー特殊グループに新着メールがあります
		緑	ワイヤレス LAN モジュールがオンになっています
		オレンジ	Bluetooth モジュールがオンになっています
		半分オレンジ/半分緑	ワイヤレスＬＡＮと Bluetooth の両方がオンになっています
LED 状況 インジケータ 		緑	フロッピー/ハードディスク/CD デバイスの動作
		緑	Num ロックが有効です
		緑	Caps ロックが有効です
		緑	スクロールロックが有効です （有効にするには Fn＆ScrLK を押してください）
MIDI ポート （ゲームポート） 		MIDI ケーブルまたは、ジョイスティックを接続する PC 側のコネクタです。コネクタ形状は D-Sub15 ピンで、SoundBlaster 互換のほとんどのサウンドカードが備えています。	
外部モニタ （VGA ポート） 		VGA モニタをこのポートに接続し、LCD と外部モニタで同時に同じ映像を流すことができます。	
SCSI ■写真は SCSI-2		パソコン本体と周辺機器を繋げる規格の一つです。現在では汎用性や性能が大幅に強化された後継規格、SCSI-2、SCSI-3 が普及している。	

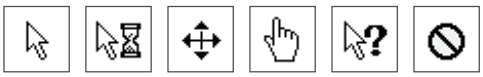
【 マウスの操作方法 】

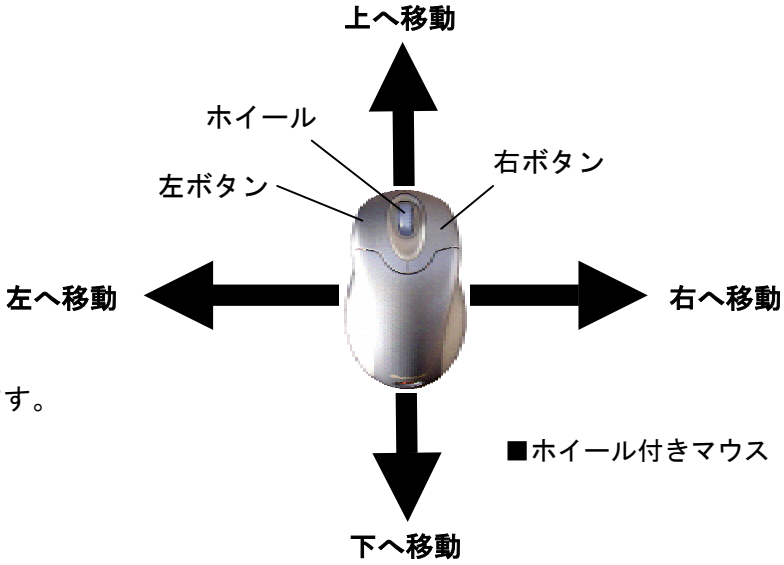
マウスの種類は数多く存在しますが、一般的に左右、二つのボタンが付いた２ボタン式マウスで、現在では真ん中にホイールと呼ばれる回転式の円盤が付いているものが多くなっています。

パソコンの画面には通常小さな白い矢印 が表示されています。これをマウスポインタといい、マウスの画面上の位置を指しています。

マウスを移動させると、それと連動してマウスポインタが画面を移動します。マウスポインタを画面のいろいろな場所に移動してみると、場所や状況によって形が変化します。

主なマウスポインタの種類





■ホイール付きマウス

【 マウスの持ち方 】

マウスには、通常２つのボタンがついています。
２つのボタンに人差し指、中指をのせて軽く握ります。

【 マウスの基本操作 】

・クリック

マウスを止めたまま、マウスのボタンを押し、素早く離す操作のことを言います。単純にクリックと言う場合は、マウスの左ボタンを押します。

・ダブルクリック

マウスを止めたまま、マウスのボタンを素早く押して離し、間をあけずに同じ操作をもう一度繰り返す事。単純にダブルクリックと言う場合は、マウスの左ボタンを押します。

・右クリック

マウスの右ボタンをクリックする操作のことです。マウスポインタが指し示す場所に関連するメニューなどを表示する時に使います。

・ホイール

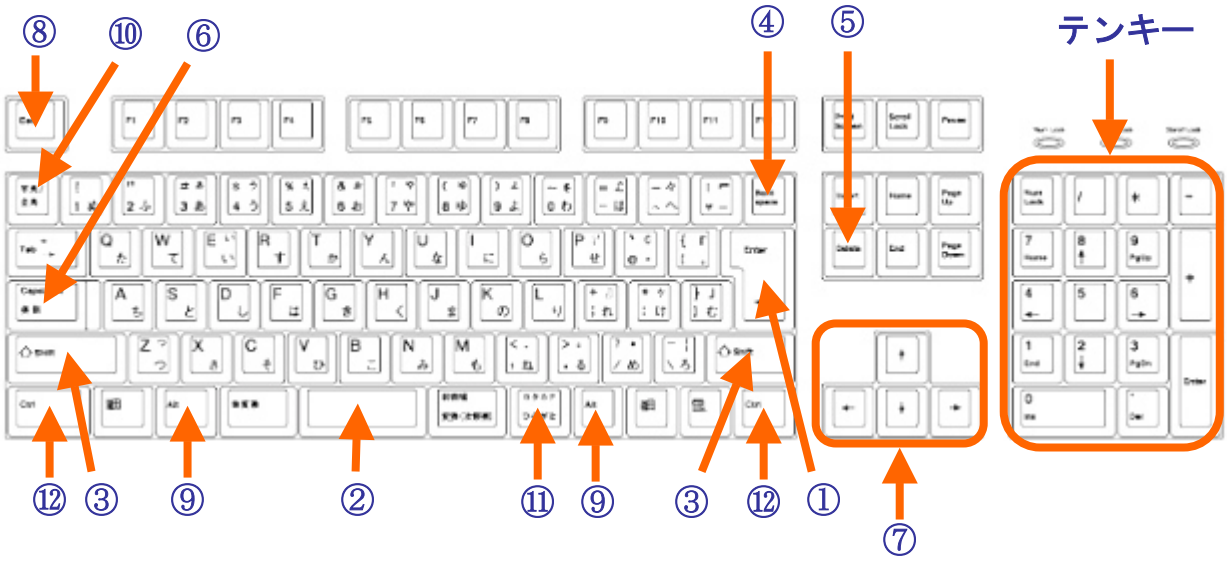
ホイールを指で回すことによって、マウスを動かしたり、ボタンを押したりすることなく、ウィンドウのスクロールや、文字サイズなどを簡単に操作することができます。

・ドラッグ＆ドロップ

マウスを使った操作法の一つで、Windows を使う上で、よく多用されます。画面上でマウスポインタがウィンドウの枠やファイルのアイコンなどに重なった状態でマウスのボタンを押し、そのままの状態でマウスを移動（ドラッグ）させ、別の場所でマウスのボタンを離す（ドロップ）こと。

【 キーボードの操作方法 】

キーボードにはキーがたくさんありますが、特殊なキー以外の文字キーの配列は共通しています。
初めは、Windows を使う上でよく使われている最小限のキーを覚えます。



①エンターキー　入力・変換をした文字を確定する役割と文章を改行する役割があります。
②スペースキー　空白を入力する役割と漢字変換を行う役割があります。
③シフトキー　他のキーと組み合わせて記号を入力できます。
④ﾊﾞｯｸｽﾍﾟｰｽｷｰ　文書や文字を入力する場面で、カーソル位置の左側にある文字を１文字削除します。通常事前に入力した文字を１文字削除するときに使います。
⑤デリートキー　文字やデータを削除するときに使います。通常、カーソル位置の右側にある文字を１文字削除します。
⑥ｷｬﾌﾟｽﾛｯｸｷｰ　③のキーと一緒に押すことでアルファベットの大文字と小文字を切り替えることができます。
⑦カーソルキー　文字の入力位置をあらわすカーソルを、カーソルキーを押した矢印の方向へ移動します。
⑧エスケープキー　処理をキャンセルしたり取り消したりしたいときに使います。
⑨アルトキー　単独で押しても何も入力されません。他のキーと組み合わせてウィンドウズやアプリケーションの操作に使います。
⑩半角／全角キー　日本語入力システム(IME)のオン／オフを切り替えます。日本語入力システムの種類によっては、【Alt】キーを押しながら【半角／全角】キーを押して日本語入力のオン／オフを切り替えます。
⑪ｶﾀｶﾅ/ひらがなｷｰ　日本語入力時に使うキーで、カタカナとひらがなの入力モードを切り替えるために使います。
⑫ｺﾝﾄﾛｰﾙｷｰ　複数のファイル選択やアプリケーションの強制終了時に他のキーとと組み合わせて使います。

基本的な文字の入力

＃	ぁ	← Shift キーを押しながら
３	あ	← Shift キーを押さない
英数	かな	

１つのキーには、入力できる文字が多いもので４つ刻印されています。左右は「英数入力モード」と「かな入力モード」の違いを表し、上下は【Shift】キーを併用するかしないかを表しています。ただし、日本語をローマ字で入力する場合は、右のかな列は使いません。

◇ 「英数入力モード」
　そのまま ・・・・・ 「３」　　「Shift」キーを押しながら ・・・・・ 「＃」
◇ 「かな入力」
　そのまま ・・・・・ 「あ」　　「Shift」キーを押しながら ・・・・・ 「ぁ」

≪日本語を入力できるようにする≫

ウィンドウズで日本語（ひらがなやカタカナ、漢字）を入力するためには、日本語入力システムを使います。

ここでは、ウィンドウズに標準で用意されている「MS-IME」と呼ばれる日本語入力システムを説明します。

■MS-IME

日本語入力を始めるためには、まず初めに日本語入力システムをオンにします。キーボードの【半角／全角】キーを押すことでオンとオフを切り替えることが出来ます。

また、それと同時に MS-IME の表示が変化します。現在どんな入力方式に切り替わっているのかが人目で分かります。

日本語入力システムの左端をクリックすることで、入力方式を選択することが出来ます。

入力時に打ち込む用途によって切り替えます。

あ	ひらがなを入力する状態
力	全角カタカナを入力する状態
力	半角カタカナ（横幅が全角の半分のカタカナ）を入力する状態
A	全角英数（アルファベット）を入力する状態
A	半角英数（横幅が全角の半分のアルファベット）を入力する状態
A	直接入力（キーボードから半角のアルファベットを入力）できる状態。特にインターネットを利用するためには重要

≪かな入力とローマ字入力≫

キーボードを使って日本語を入力する場合、かなを直接入力する【かな入力】と、アルファベットを使う【ローマ字入力】の２種類の入力方法があります。どちらも一長一短がありますので好みの方法を選択してください。

かな／ローマ字入力それぞれの長所・短所

	長　　所	短　　所
かな入力	・同じ長さの日本語を入力する場合、ローマ字入力よりも押すキーの数が少ない ・キーに刻印されている文字で「かな」入力できる	・英字とかなの両方のキー配置を覚える必要がある
ローマ字入力	・英字のキー配置だけ覚えていればいい ・かな刻印が無い英語キーボードでも日本語入力できる	・かな入力と比較すると、キーを押す回数が多い ・ローマ字を覚える必要がある

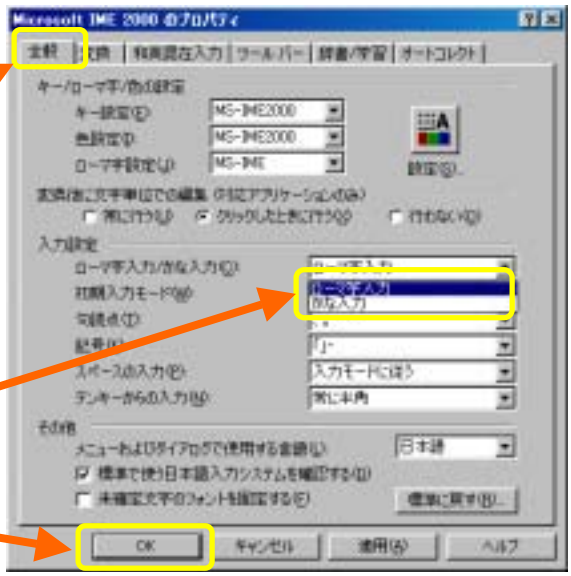
≪かな入力／ローマ字入力を切り替える≫

かな入力とローマ字入力を切り替えるには、日本語入力システムの設定を変更する必要があります。

① 日本語入力ツールバーの【プロパティ】ボタンをクリックして、MS-IME の設定画面を開きます。

■IME2000 のプロパティ

② 設定画面から【全般】タブをクリックして選びます。



③ 「ローマ字入力／かな入力」の項目のところをマウスでクリックして、使用したい入力方法を選択します

④ 最後に【ＯＫ】ボタンをクリックして設定画面を閉じます。

あ	あ	い	う	え	お
	A	I	U	E	O
	ぁ	ぃ	う	ぇ	ぉ
	LA	LI	LU	LE	LO
か	か	き	く	け	こ
	KA	KI	KU	KE	KO
	きゃ	きぃ	きゅ	きぇ	きょ
	KYA	KYI	KYU	KYE	KYO
さ	さ	し	す	せ	そ
	SA	SI	SU	SE	SO
		SHI			
	しゃ	しぃ	しゅ	しぇ	しょ
	SYA	SYI	SYU	SYE	SYO
	SHA		SHU	SHE	SHO
た	た	ち	つ	て	と
	TA	TI	TU	TE	TO
		CHI			
			っ		
			LTU		
	ちゃ	ちぃ	ちゅ	ちぇ	ちょ
	TYA	TYI	TYU	TYE	TYO
	CYA	CYI	CYU	CYE	CYO
	CHA		CHU	CHE	CHO
	てゃ	てぃ	てゅ	てぇ	てょ
	THA	THI	THU	THE	THO
な	な	に	ぬ	ね	の
	NA	NI	NU	NE	NO
	にゃ	にぃ	にゅ	にぇ	にょ
	NYA	NYI	NYU	NYE	NYO
は	は	ひ	ふ	へ	ほ
	HA	HI	HU	HE	HO
	ひゃ	ひぃ	ひゅ	ひぇ	ひょ
	HYA	HYI	HYU	HYE	HYO
	ふぁ	ふぃ	ふ	ふぇ	ふぉ
	FA	FI	FU	FE	FO
	ふゃ	ふぃ	ふゅ	ふぇ	ふょ
	FYA	FYI	FYU	FYE	FYO
ま	ま	み	む	め	も
	MA	MI	MU	ME	MO
	みゃ	みぃ	みゅ	みぇ	みょ
	MYA	MYI	MYU	MYE	MYO

や	や	い	ゆ	いぇ	よ
	YA	YI	YU	YE	YO
	ゃ	ぃ	ゅ	ぇ	ょ
	LYA	LYI	LYU	LYE	LYO
ら	ら	り	る	れ	ろ
	RA	RI	RU	RE	RO
	りゃ	りぃ	りゅ	りぇ	りょ
	RYA	RYI	RYU	RYE	RYO
わ	わ	うぃ	う	うぇ	を
	WA	WI	WU	WE	WO
ん	ん	ん			
	NN	N			
が	が	ぎ	ぐ	げ	ご
	GA	GI	GU	GE	GO
	ぎゃ	ぎぃ	ぎゅ	ぎぇ	ぎょ
	GYA	GYI	GYU	GYE	GYO
ざ	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
	ZA	ZI	ZU	ZE	ZO
だ	だ	ぢ	づ	で	ど
	DA	DI	DU	DE	DO
	ぢゃ	ぢぃ	ぢゅ	ぢぇ	ぢょ
	DYA	DYI	DYU	DYE	DYO
	でゃ	でぃ	でゅ	でぇ	でょ
	DHA	DHI	DHU	DHE	DHO
ば	ば	び	ぶ	べ	ぼ
	BA	BI	BU	BE	BO
	びゃ	びぃ	びゅ	びぇ	びょ
	BYA	BYI	BYU	BYE	BYO
ぱ	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
	PA	PI	PU	PE	PO
	ぴゃ	ぴぃ	ぴゅ	ぴぇ	ぴょ
	PYA	PYI	PYU	PYE	PYO
ゔぁ	ゔぁ	ゔぃ	ゔ	ゔぇ	ゔぉ
	VA	VI	VU	VE	VO

※「……だった」の「っ」などの場合

DATTA　子音を2つ続けて入力します

【 電源の入れ方 】

電源ボタンを押します。ボタンが押されると、電源ランプが点灯し、コンピューターが動き出します。電源ボタン位置は、コンピューター機種によって異なります。多くのコンピューターには、電源ボタンを示すマークが記されていますので確認してみてください。

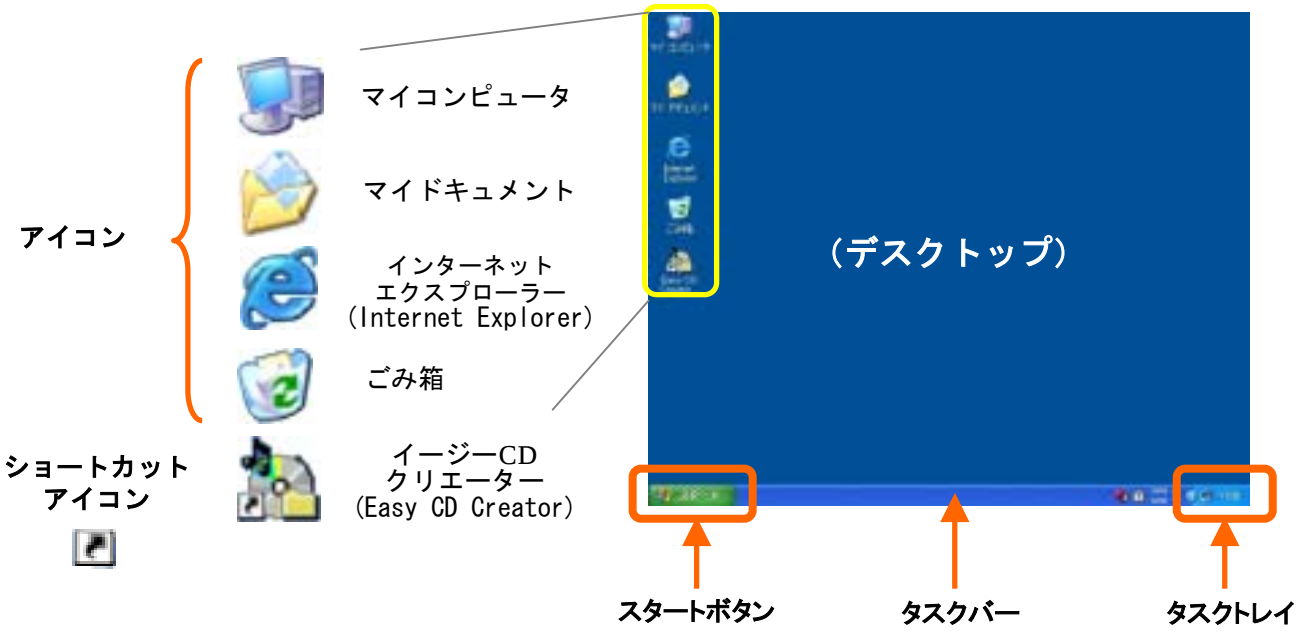
パソコンの電源を入れてから、パソコンが使えるようになるまで、数十秒かかります。
そのまましばらくお待ちください。しばらくすると、デスクトップ画面が表示されます。

【 ポイント 】

電源ボタンを押しても、全く反応しない、動作しない場合には、本書トラブルシューティングをご参照下さい。

≪デスクトップとは？≫

デスクトップとは、コンピュータをスタートさせた時に、一番初めに見る画面です。マイコンピュータやごみ箱、プログラムのショートカットなどのアイコンが表示されます。



■タスクバー

タスクバーは、通常画面の下部に表示されます。タスクバーに含まれる「スタート」ボタンを使って、すばやくプログラムを起動したり、ファイルの検索や、ヘルプ情報の参照、コンピューターのシャットダウン（電源を切る作業）などを行うことができます。

プログラムを起動すると、そのプログラムに対応するボタンがタスクバーに表示されます。複数のプログラムを起動している場合、そのプログラムの数だけ対応するボタンがタスクバーに表示されているはずです。タスクバーに表示された使いたいプログラムをクリックすることによって、プログラムをすばやく切り替えることができます。

タスクバーにある［デスクトップの表示］ボタンをクリックすることによって、開いたウィンドウをすべて最小化し、すばやくデスクトップを表示することができます

	マイコンピュータ	マイコンピュータを開くと、ハードディスク、フロッピーディスク、CD-ROM ドライブ、および割り当て済みネットワークドライブの内容をすばやく表示することができます。
	ごみ箱	ごみ箱には削除したファイルやフォルダが保存されています。これらの項目はごみ箱を空にするまで残っており、削除したものを戻す場合には、ごみ箱からその項目を取り出すことができます。
	マイドキュメント	マイドキュメントは、ファイルや画像データなど、私的なデータなどを保存するのによく使われています。「My Pictures」フォルダなども格納されており、デジタルカメラやスキャナからダウンロードした画像を保存する時などに使われます。
	ショートカットアイコン	クリックすることで、すばやくプログラムを起動させることが出来ます。複雑な階層上にあるプログラムをユーザーが起動しやすくするために使われます。
	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄｴｸｽﾌﾟﾛｰﾗｰ （Internet Exploere）	インターネットを観覧するのに使います。
	ｱｳﾄﾙｯｸｴｸｽﾌﾟﾚｽ （Outlook Express）	電子メールやインターネットニュースグループが利用できます。
	マイネットワーク	コンピュータで接続されているネットワーク上にあるコンピュータや共有ファイルなどを見ることができます。
	ｲｰｼﾞｰｼｰﾃﾞｨｰｸﾘｴｰﾀｰ （Easy CD Creator）	CD への書き込みソフトです。その他にも数多くの書き込みソフトが存在します。
	ﾋﾞｰｽﾞﾚｺｰﾀﾞｰｺﾞｰﾙﾄﾞ （B's Recorder GOLD）	CD への書き込みソフトです。その他にも数多くの書き込みソフトが存在します。

≪フォルダとは？≫

フォルダは、パソコンにインストールしたプログラムや、作成したファイルなどを判りやすくまとめておくための箱のようなものです。フォルダに判りやすい名前を付けることで、中に入っているプログラムやファイルの種類を分別でき、作業効率を向上させることができます。

【 データＣＤの作成 】

CD や DVD にデータを保存するためには、次のものが必要です。

■書込装置（ドライブ）
現在では、DVD-RAM も含め、DVD や CD にも書き込めるスーパーマルチドライブが主流になりつつあります。

■書込ソフト
CD や DVD などのメディアにデータを書き込むためのソフトです。

■CD/DVD/DVD-RAM メディア
このメディアにデータなどを保存します。

書き込みソフトはライティングソフトと呼ばれています。ライティングソフトを使用することによって、大切なデータを CD-R などのメディアに保存することができます。
ライディングソフトは数多く存在しますが、一般的に広く普及している代表的なソフトを次に記します。

≪主なライティングソフト≫

- Aplix「WinCDR」
- BHA「B's Recorder」
- PRO・G「Nero」
- Adaptec「Easy CD Creator」

≪主な書込み方式≫

■データ CD として作成した場合はデータ保存にのみ使用されるので家庭用または車載用ステレオ CD プレイヤーでは再生できません。主に表計算、文章といったデータのバックアップに適しています。

■音楽 CD として作成した場合は、データＣＤとは異なり家庭用または車載用ステレオＣＤプレイヤーで再生することが出来ます。

書き込み方法　（Easy CD Creator 編）

書き込み方法は、ライティングソフトによって様々です。「Easy CD Creator」を使用した場合のデータＣＤ作成までの書き込み方法を紹介します。

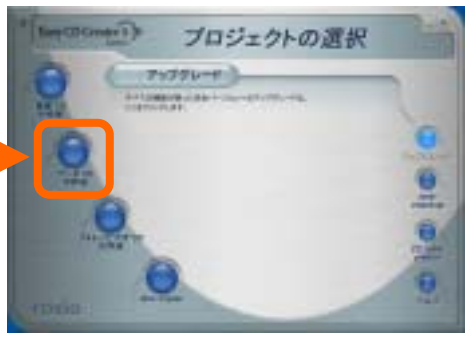
１．Easy CD Creator の起動

「Easy CD Creator」を起動すると、メニュー画面が表示されます。マウス操作で目的となるメニューを選択します。

今回はデータＣＤを作成するので、
「データＣＤの作成」ボタンをクリックします。

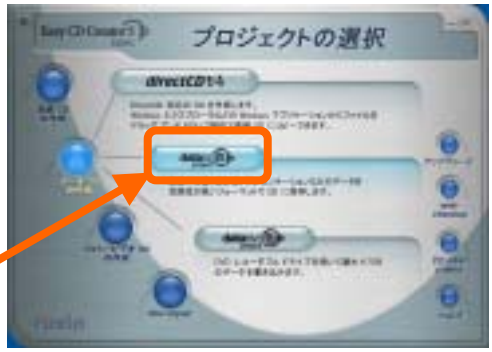
（データＣＤ作成編）

■メニュー画面



■「dataCD」ボタン

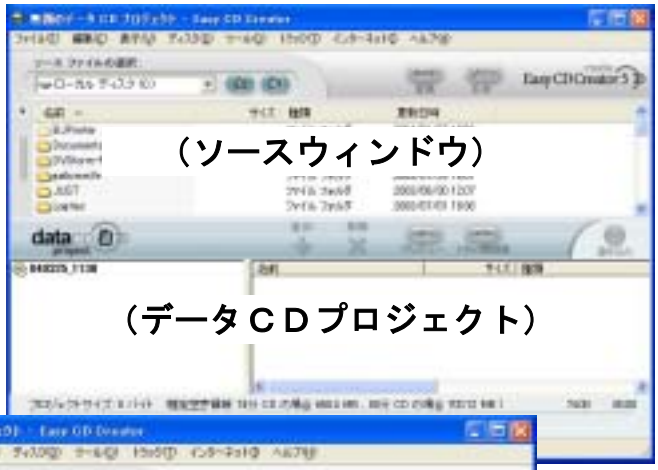
■「dataCD」ボタンをクリック



さらに選択肢が表示されます。目的となるメニューをマウスにより選択し、クリックでソフトを起動させます。
今回の場合はデータＣＤを作成しますので、
「dataCD」ボタンをクリックします。

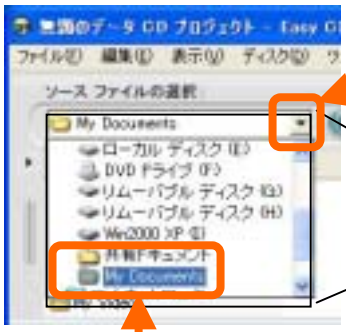
「Easy CD Creator」が起動します。
書き込みに対応したメディア（DVD-R/RW、CD-R/RW メディア）を挿入します。

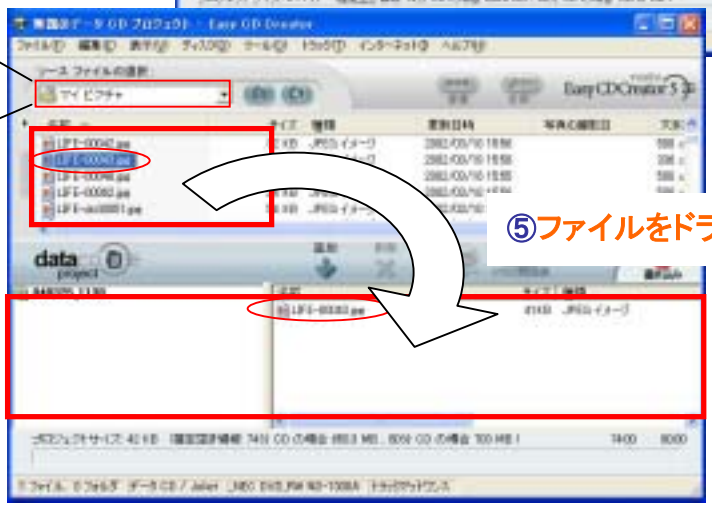
■「Easy CD Creator」起動画



「Easy CD Creator」を使用してＣＤを作成するには、ファイルやフォルダなののデータを
「ソースウィンドウ」から選択し、「データ CD プロジェクト」に追加する必要があります。

■ドロップダウンリストボックスで場所を選択





「ソースファイルの選択」から目的となるファイルの場所をドロップダウンリストボックスより選択します。

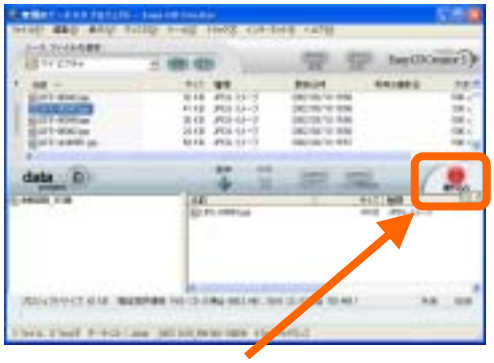
「ソースウィンドウ」に目的となるファイルが表示されたら、そのファイルを「データＣＤプロジェクト」へドラック＆ドロップで追加します。また、フォルダやファイルを選択する際に、「Ctrl」または「Shift」キーを押しながら選択すると、同時に複数のファイルを選択することができます。
さらに追加をする場合は、③～⑤の手順を繰り返します。

■「書き込み」ボタン

作成したいファイルの追加が完了したら書き込みを行います。書き込みは「書き込み」ボタンをクリックします。

「ＣＤ書き込みセットアップ」ウィンドウが表示されます。ここで書き込みを行うドライブの選択、書き込み枚数、書き込み速度など、書き込みに関する設定を行います。

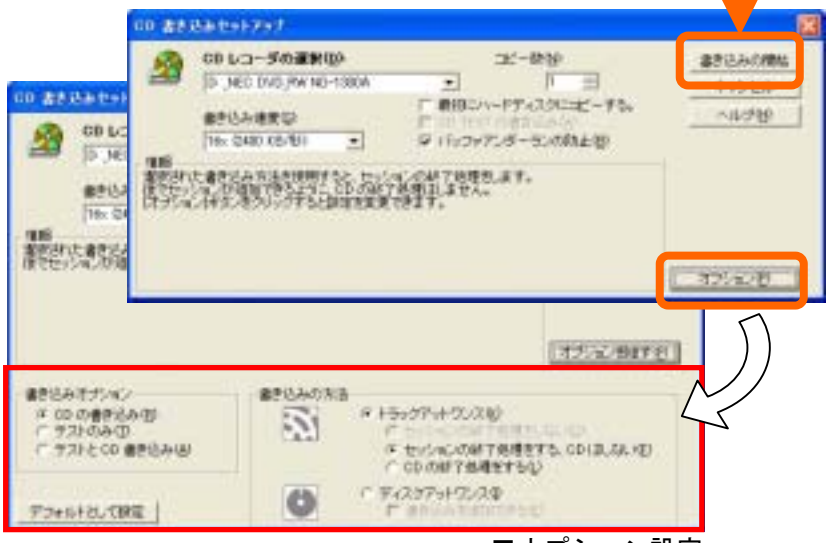
■「書き込み」ボタンをクリック



⑥「書き込み」をクリック

⑦ クリック

■「CD書き込みセットアップ」



■オプション設定

■ ＣＤレコーダの選択

通常はそのままで問題ありません。ＣＤ書き込みに対応した複数のＣＤレコーダをパソコンに接続している場合には、どのレコーダを使用するか選択します。

■ 書き込み速度

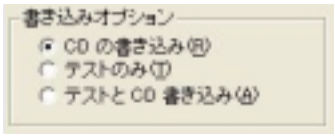
通常はそのままで問題ありません。書き込み速度の数値が高い程、書き込みにかかる時間が短く、より速くのＣＤの書き込みが完了します。

■ コピー数

同じものを複数作成する場合には、枚数を変更します。

オプションの設定

■ 書き込みオプション



[ＣＤの書き込み]

このオプションを選択すると、テストしないで直ちに書き込みを開始します。

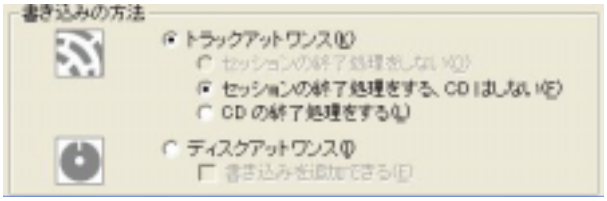
[テストのみ]

このオプションを選択すると、書き込むファイルをＣＤレコーダに転送し、実際の書き込みと同じ条件でテストを実行します。ただし、書き込みレーザは照射されないのでＣＤには書き込まれません。

[テストとＣＤ書き込み]

このオプションを選択すると、書き込むファイルをＣＤレコーダに転送し、実際の書き込みと同じ条件でテストを実行します。テストが正常に終了すると実際の書き込みが始まります。

■ 書き込みの方法



［トラックアットワンス］

このオプションを選択すると、１回に１トラックごと書き込みを行います。後でデータを追記したりしたい場合はこちらを選択します。

■セッションの終了処理をする、ＣＤはしない

音楽ＣＤを作成している場合、このオプションを選択すると、後から追加することが出来ます。たさし終了処理をしないと、一般の家庭用または車載用ＣＤプレーヤでは再生できません。このオプションは、音楽ＣＤプロジェクトを作成している時のみ有効です。

■セッションの終了処理をする、ＣＤはしない

このオプションを選択すると、セッションの終了処理をします。ＣＤの終了処理はしないので、後でセッションを追加することができます。このオプションはセッションを終了するので、一般の家庭用または車載用ＣＤプレーヤで再生できます。ただし、音楽ＣＤの場合は、ほとんどの家庭用または車載用ＣＤプレーヤで再生できるのは最初のセッションだけです。追加したものは再生できません。パソコンでは問題なく再生することが可能です。

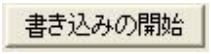
［ディスクアットワンス］

このオプションを選択すると、書き込み完了後、セッションとＣＤの両方を終了処理します。一旦ＣＤを終了すると、トラックやファイルなどのデータはもう追記不可能になります。

■書き込みを追加できる

このオプションを選択すると、複数のディスクアットワンスセッションを含む特別なＣＤを作成できます。セッションアットワンスとも呼ばれています。

■「書き込みの開始」ボタン



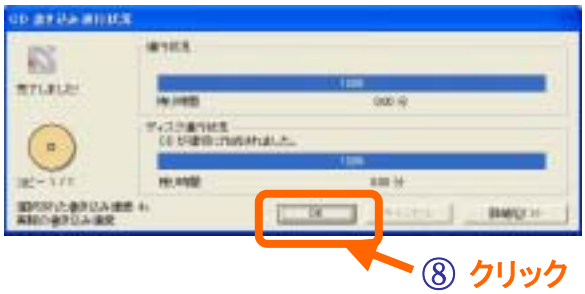
設定が終了したら、書き込みを開始させます。書き込みは「書き込みの開始」ボタンをクリックします。

「CD 書き込み進行状況」ウィザードが表示されます。青のゲージが 100%に達した時が書き込みの完了を意味します。完了するまでの間はできればパソコンの操作を行わないようにしてください。書き込みが失敗する可能性があります。

CD の書き込みが完了すると、「CD 書き込み進行状況」ウィンドウの「OK」ボタンを押します。

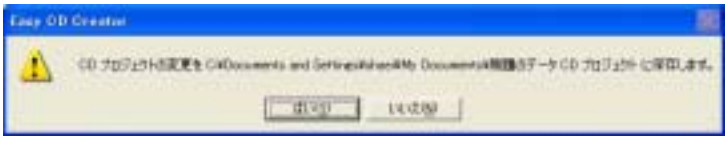
■書き込み画面

■書き込み完了！



これで完成です！

Easy CD Creator を終了してください。プロジェクトを保存したい場合は、保存をします。



書き込み方法　（B's Recorder GOLD BASIC 編）

書き込み方法は、ライティングソフトによって様々です。「B's Recorder GOLD BASIC」を使用した場合のデータＣＤ作成までの書き込み方法を紹介します。

１．B's Recorder GOLD BASIC の起動

（データＣＤ作成編）

「B's Recorder GOLD BASIC」を起動すると、メニュー画面が表示されます。マウス操作で目的となるメニューを選択します。

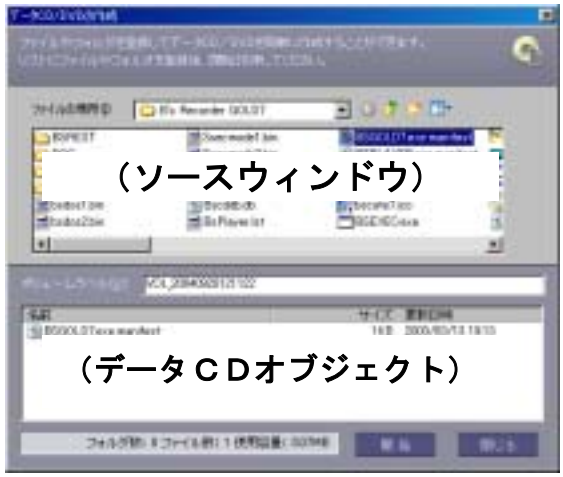
今回はデータ CD を作成するので、
「データ」ボタンをクリックします。

■「データ」ボタン

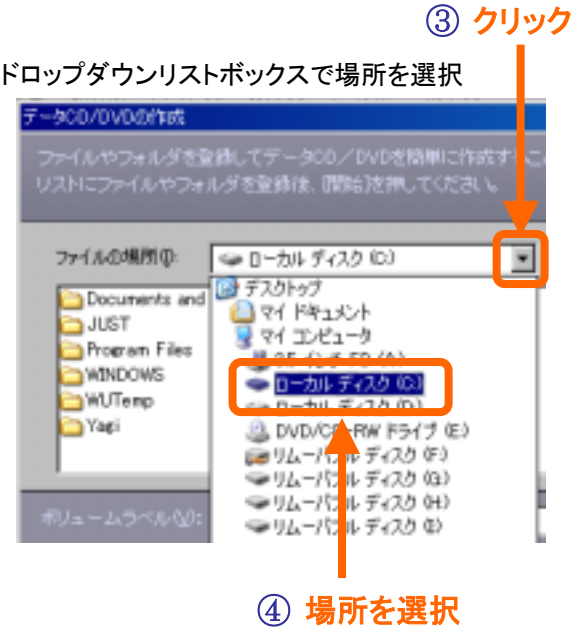
■メニュー画面

「データ CD/DVD の作成」画面が表示されます。目的となるファイルの場所をドロップダウンリストボックスより選択します。

■「データ CD/DVD の作成」画面



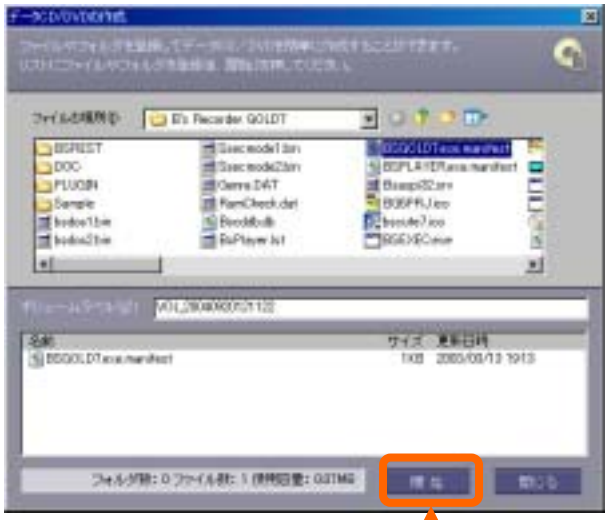
■ドロップダウンリストボックスで場所を選択

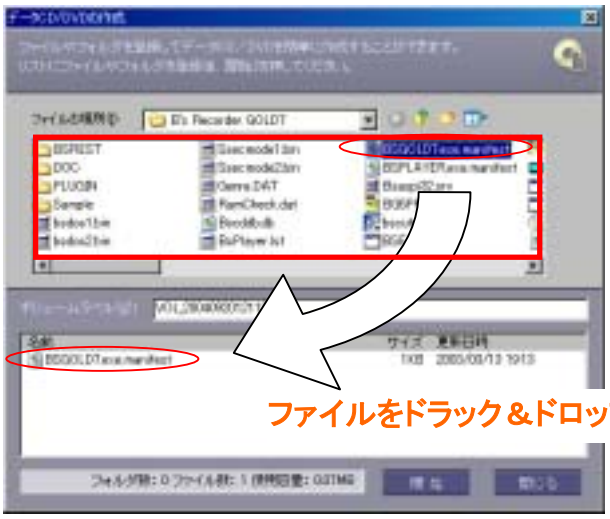


「ソースウィンドウ」に目的となるファイルが表示されたら、そのファイルを「データ CD プロジェクト」へドラック＆ドロップで追加します。また、フォルダやファイルを選択する際に、「Ctrl」または「Shift」キーを押しながら選択すると、同時に複数のファイルを選択することができます。

作成したいファイルの追加が完了したら書き込みを行います。書き込みは「開始」ボタンをクリックします。

■「開始」ボタンをクリック

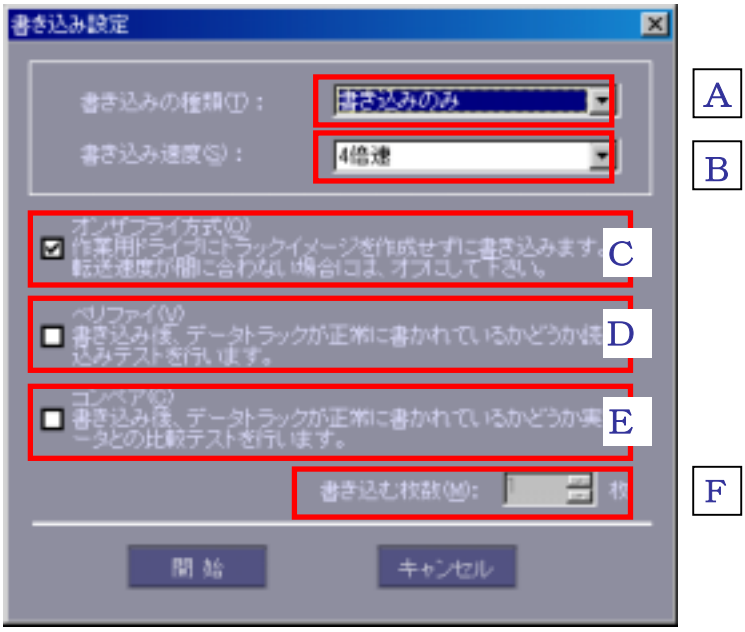




■「開始」ボタン

「開始」ボタンを押すと、「書き込み設定」画面が表示されます。

■「書き込み設定」画面



「書き込み設定」画面では、書き込み方法、書き込み速度、書き込みに関する設定を行います。

A　書き込みの種類
B　書き込み速度

C　オンザフライ方式
D　ベリファイ
E　コンペア

F　書き込む枚数

特に設定に変更がなければ、「開始」ボタンを押すことによって、CD への書き込みが開始されます。

書き込み設定

■ 書き込みの種類

[テストの後、書き込み]

テスト書き込みを行った後、書き込みを行います。テスト書き込み中にエラーが発生した場合は、メディアが無駄になりません。書き込み動作を 2 回行うため、「書き込みのみ」の約 2 倍の時間がかかります。

[書き込みのみ]

実際に CD/DVD に書き込みを行います。

[テストのみ]

テスト書き込みを行います。書き込み速度の確認等にお使いください。

[書き込み速度]

書き込みに使用する速度を設定します。ただし、メディアの状態をチェックし、書き込み速度を自動で設定する機能を搭載したドライブでは、ここで設定した書き込みスピードで必ず書き込まれるというわけではありません。

■ 書き込み方式

[オンザフライ方式]

このチェックボックスを「オン」に設定すると、書き込み前に作業領域にイメージを作成することなく、ダイレクトに書き込みます。

[ベリファイ]

このチェックボックスを「オン」に設定すると、書き込み終了後にエラーなくメディアが読み込めるかどうかチェックを行います。

[コンペア]

このチェックボックスを「オン」に設定すると、書き込み終了後に正常にデータが書き込まれたかどうか実データとの比較テストを行います。

[書き込む枚数]

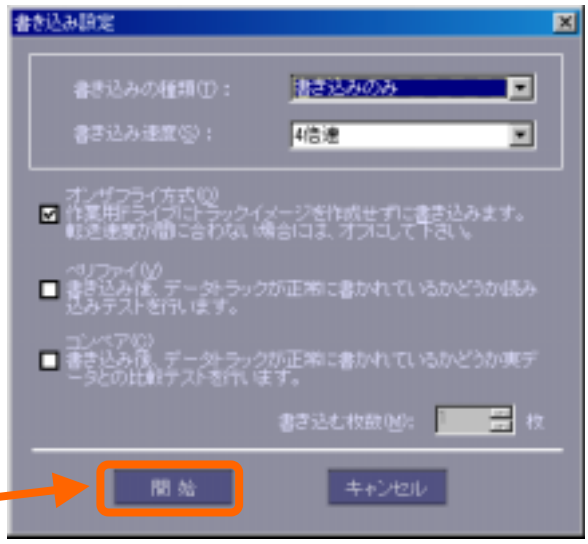
この設定は、何枚のメディアを作成するかの設定です。作成枚数を設定してください。

特に設定に変更がなければ、「開始」ボタンを押すことによって、ＣＤへの書き込みが開始されます。

■「開始」ボタン

設定が終了したら、書き込みを開始させます。
書き込みは「開始」ボタンをクリックします。

■書き込み中画面



⑦「開始」をクリック

■書き込み中画面

書き込み中の画面が表示されます。緑のゲージが 100%に達した時が書き込みの完了を意味します。完了するまでの間はパソコンの操作を行わないようにしてください。書き込みに失敗する可能性があります。

CD の書き込みが完了すると、CD トレイが開き CD が排出され（パソコンにより排出しない場合もあります）

「正常に終了しました。」とメッセージが表示されます。これで CD の書き込みが正常に終了したと言えます。

■書き込み完了画面

「OK」ボタンをクリックします。

【 Norton Ghost 2003 使用方法 】

弊社にてリカバリーシステムを導入されたお客様は、万一ウィルスの感染や、Windows が起動しなくなった場合で、リカバリーディスクを作成した日にいつでも復元する事が出来ます。復元方法については、下記を参考に復元作業を行います。(※リカバリー作業を行いますと、リカバリーディスクを作成した日より後に作成・保存したデータや、ソフトなどのアプリケーションは全て消去されますので、リカバリー作業前には十分考慮した上で、自己責任で行って下さい)

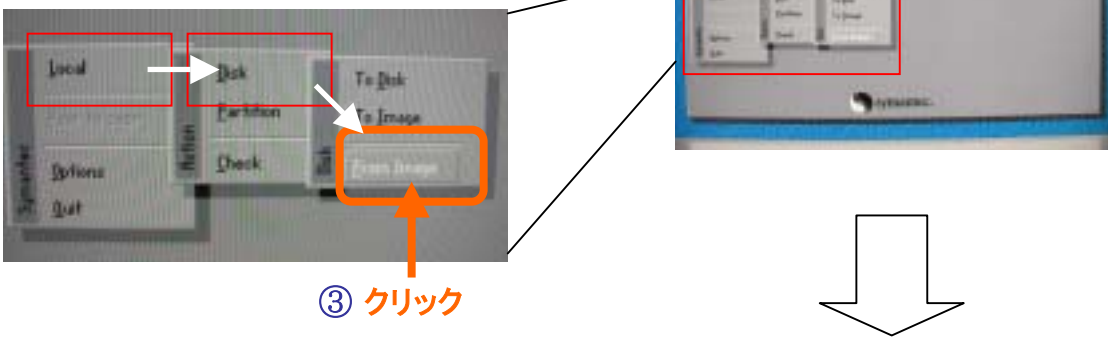
1．ＣＤから起動させる（CD 挿入状態でパソコン起動）

「Norton Ghost」が起動すると、メニュー画面が表示されます。マウス操作で目的となるメニューを選択します。

弊社での再セットアップ用ディスク作成時は、ハードディスク内容をそのままイメージ化した状態で CD に保管するため、以下のような手順で復元作業を開始させます。

（リカバリー方法）

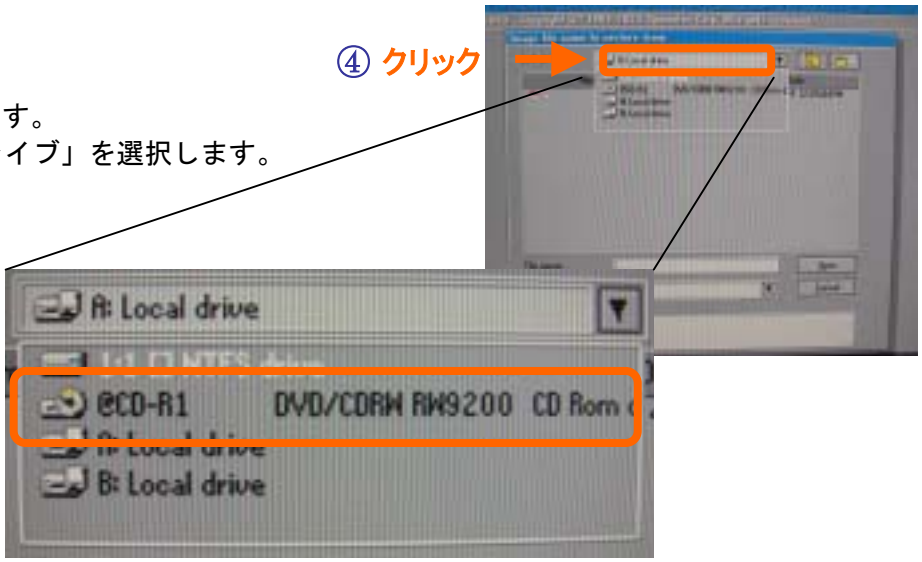
■メニュー画面



メニュー画面左下に選択項目があります。
次の手順で、操作を行って下さい。（以下手順）

1．「Local」をクリックします。
2．「Disk」をクリックします。
3．「From Image」をクリックします。
4．イメージ選択画面より、「CD ドライブ」を選択します。

■イメージ選択画面

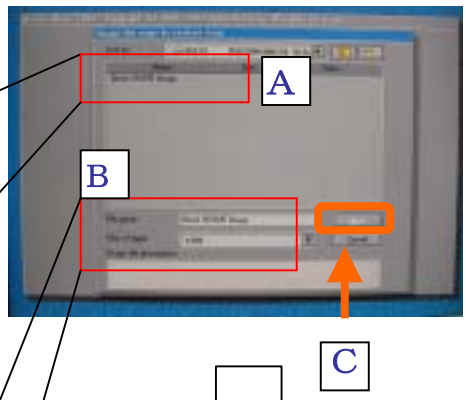


⑤ CD ドライブを選択し、「クリック」します

どのイメージファイルから復元するか、イメージ選択画面が表示されます（上図）

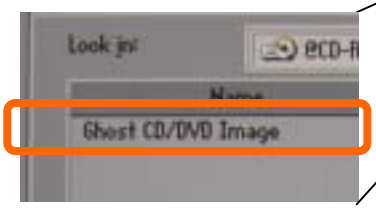
通常、イメージ選択場所がデフォルトでは、「A:Local Drive」（フロッピードライブ）となっていますので、クリックして、CD ドライブに変更します。ドライブ名などは、ご使用パソコンの環境により異なります。

収録されている「Ghost CD/DVD Image」が表示されます。
以下 A～C の手順で操作を行って下さい。

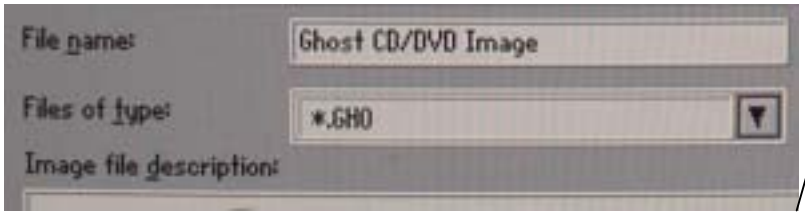


A 「Ghost CD/DVD Image」を「クリック」します

⑥ クリック



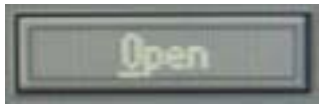
B 「Ghost CD/DVD Image」が表示された事を確認します。



C 「Open」ボタンを「クリック」します。

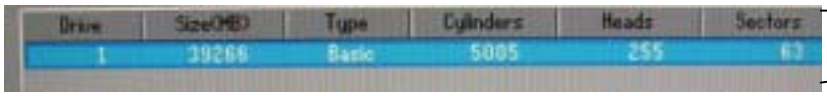
■「Open」ボタン

⑦ クリック

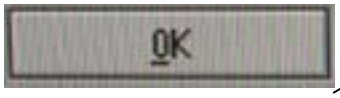


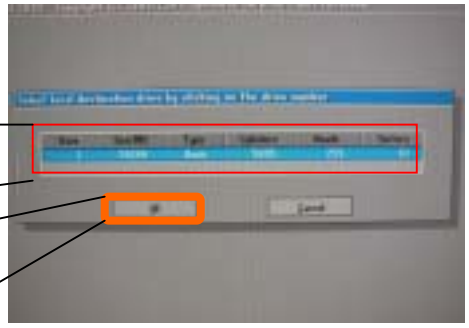
■ハードディスク表示

お使いのハードディスク状況が表示されます。そのまま、「OK」ボタンをクリックします。



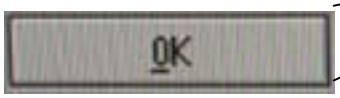
⑧ クリック

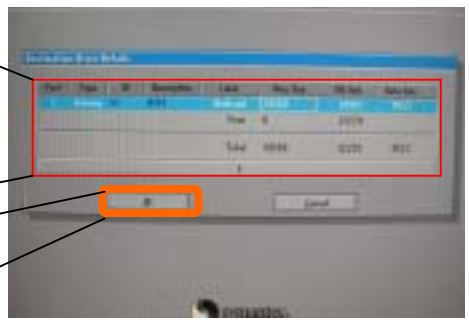




次に、パーティション画面が表示されます。ここではパーティションの設定等が行えますが、そのまま、「OK」ボタンをクリックします。

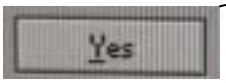
⑨ クリック

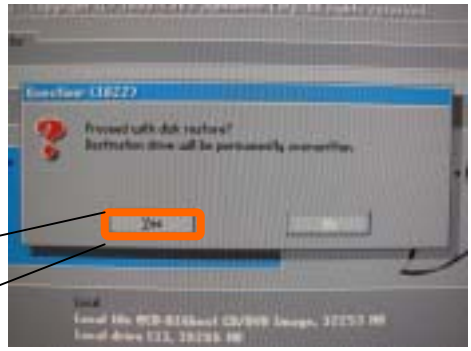




「Proceed with disk restore?
　Destination drive will be permanently overwritten」
とメッセージが表示されますので、そのまま、「OK」ボタンを押します。

「Yes」ボタンが押されると、リカバリー作業が自動的に始まります。次の指示があるまでは、パソコンのキーを押したり、マウス操作などは行わないでください。



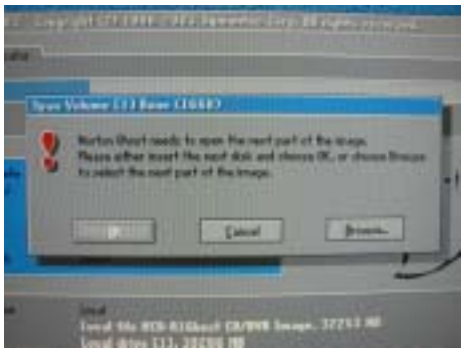


リカバリー作業が始まると、右図のように、インジケーターが表示されます。

このインジケーターは、現在のリカバリーの進行状況を表しています。青帯が一番右の「100%」と書かれたところまで、帯が移動した時が、リカバリー完了となります。

ここから先は、２通り考えられます。弊社にて再セットアップディスクを作成した際に、再セットアップディスクが２枚以上の場合は、下記左図。１枚のみの場合には、下記右図を参照。

「Norton Ghost needs to open the next part of the Image.Please either insert the next disk and choose OK,or choose Browse to select the next part of the image.」

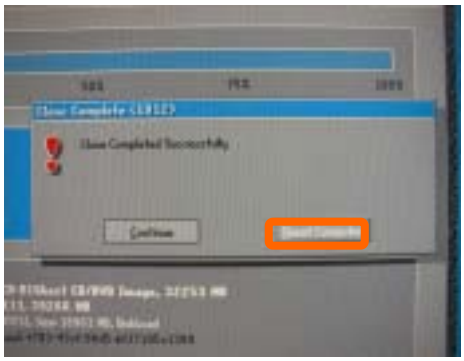


２枚以上の場合

完了

再セットアップディスクにより、リカバリー作業が終了すると、以下の画面が表示されます。

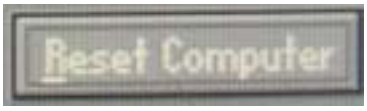
「Clone Completed Successfully」



CD が２枚以上の場合、１枚目のリカバリーが終了した時点で、上記のようなメッセージが表示されます。次の CD に入れ替えます。CD のアクセスランプが点滅または点灯し始めますので、アクセスランプが消えるまでしばらくお待ち下さい。アクセスランプが完全に消えるのを確認してから、「OK」ボタンをクリックします。リカバリーが途中から再開されます。

再セットアップディスクが３枚以上の場合は、２枚目終了時に同じメッセージが表示されますので、同じ操作を繰り返し行って下さい。

CD を取り出し、通常は右側の「Reset Computer」ボタンをクリックして下さい。クリックするとパソコンが再起動し、Windows が起動できるようになります。元の状態に戻っている事を確認します。



【 電源の切り方（Windows の終了） 】

電源を切る時はマウス操作を行い、Windows を終了させる事により電源を切る事が出来ます。強制的に電源ボタンを OFF にしないでください。強制的に電源を切ってしまうと、パソコンをはじめ、データの破損や、その他周辺機器の故障の原因となる場合があります。

■ 手　順　1

ディスプレイ画面左下にある、「スタート」ボタンをクリック

■ 手　順　2

■Windows 98

メニューの中から「Windows の終了」をクリック

■Windows 2000

メニューの中から「シャットダウン」をクリック

■Windows XP

メニューの中から「終了オプション」をクリック

■ 手　順　3

■Windows 98

「電源を切れる状態にする」を選択して「OK」ボタンをクリック。

■Windows 2000

「シャットダウン」を選択して、「OK」ボタンをクリック。

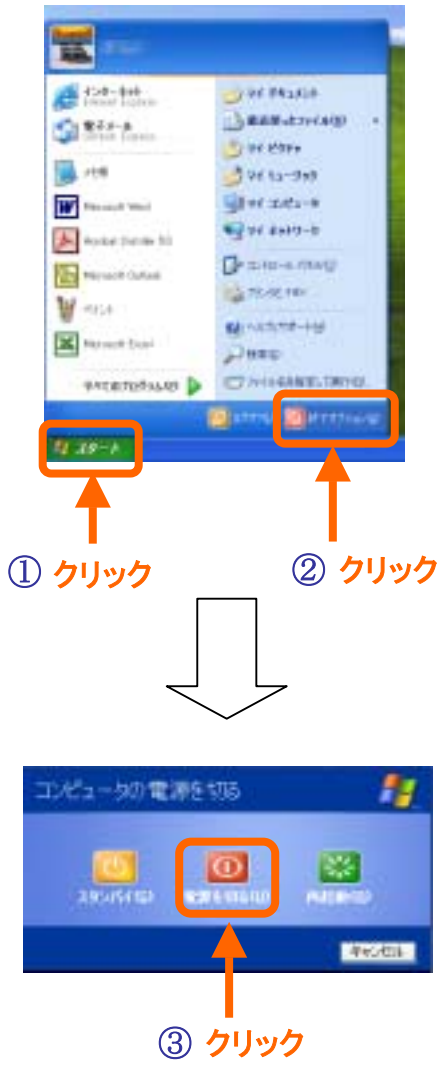
■Windows XP

「電源を切る」をクリック。

Windows 終了操作を行うと、パソコンの電源が自動的に電源が切れます。機種によっては、電源が切れずに「コンピュータの電源を切る準備ができました」というメッセージがでる場合があります。その場合は、メッセージを確認してから、電源ボタンを押して電源を切ります。

シャットダウン手順例

（WindowsXP）



【 Windows のセットアップ方法 】

Windows のセットアップを開始させるには、現在は CD を挿入して電源を投入するだけで開始出来ますが、その前に、デバイスの起動優先順位が CD になっている事が条件となります。起動優先順位は、パソコンを起動させた時に読み込ませるデバイスの順番を指します。優先順位の設定は BIOS 設定で行います。BIOS とは、パソコンに接続された機器などの入出力を制御するプログラムのことで、最近のパソコンは、工場出荷時に BIOS 設定がフロッピー、CD-ROM、ハードディスクの順で優先順位が設定されている事が多いようです。Windows セットアップ時は、CD-ROM からの起動になりますので、優先順位の頭を CD-ROM に設定します。

まずは BIOS の呼び出しを以下の項目より参考に行って下さい。

1．BIOS の呼び出し

パソコンの電源投入時には、画面にメモリカウントや、IDE のデバイスチェックなどの表示が行われ、画面下に BIOS 呼び出しのキーの種類が表示されます。（※表示されない場合には付属のマニュアルを参考に BIOS の呼び出し方法を確認して下さい）

本書の場合はキーボードの「Delete」キーを押すとことで BIOS を呼び出す事が出来ます。機種によっては「F2」キーを押す場合もあります。多くのパソコンはこのキーで呼び出せますが、その他、「Ctrl」+「S」キーを押す場合や、「F1」キーを押す場合などさまざまです。

■電源投入時の画面

■BIOS を呼び出しの代表的なキー

[Delete]、 [F2]、[F1]、[F8]、[F10]、[F12]、 [Tab]　など・・

2. BIOSの設定（Award BIOS の場合）

呼び出しに成功すると、BIOS 画面が表示されます。BIOS の種類によって異なりますが、右のような画面を見ることが出来ると思います。画面上で設定したい項目を選択し、それぞれ個々の設定を行う事が出来るようになっています。（※設定できる項目や設定方法は BIOS の種類によって異なります。付属のマニュアルを確認して下さい）

キーボードのカーソルキーでメニューを選択して、「Enter」キーを押す事で、各サブメニューに入ることができます。

■BIOS 画面

≪起動優先順位の変更≫

「Advanced BIOS Features」を選択して、「Enter」キーを押します。このサブメニューは Award BIOS の拡張項目を設定できます。

「Enter」キー

■「Advanced BIOS Features」を選択

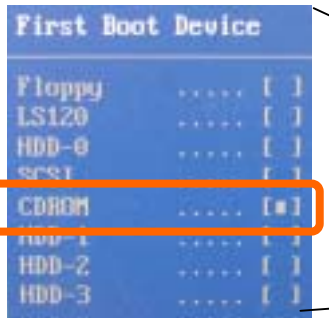
３．起動時のデバイス優先順位の選択

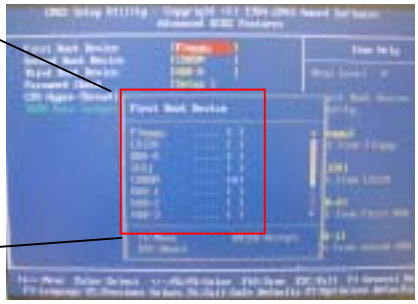
「First Boot Device」を「CDROM」に変更します。変更方法は「First Boot Device」項目で、「Enter」キーを押すと、選択画面が出ます。

■「Advanced BIOS Features」を選択

■優先順位の変更

現在の優先順位がフロッピーになっているので、「CDROM」を選択して「Enter」キーを押します。





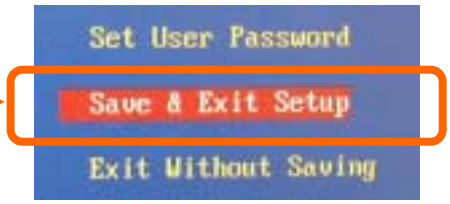
「First Boot Device」が「CDROM」になった事を確認します。

４．BIOS の保存と終了

設定が終了したら、保存して BIOS を終了させます。終了させると、自動的にコンピューターの再起動が行われます。

■BIOS 設定を保存する

「Save & Exit Setup」を選択して、「Enter」キーを押します。



◇ 注意

BIOS の設定には、専門知識が必要になります。設定項目によっては、パソコンの起動が出来なくなることやシステムに悪影響が出る可能性があります。自己責任で行ってください。

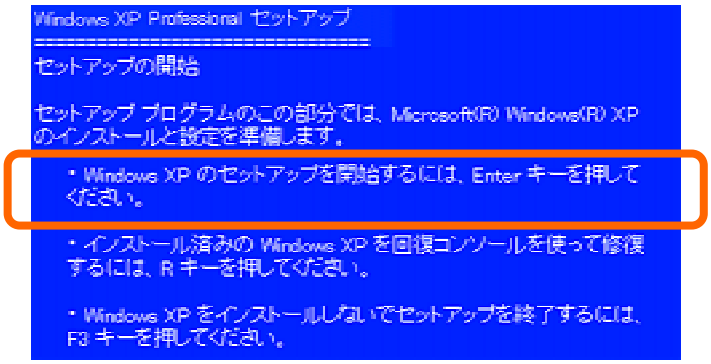
BIOS でデバイスの起動優先順位が CD-ROM になっていると、CD からの起動が出来るようになります。Windows の CD を挿入し、パソコンの電源を投入します。

５．Windows セットアップ　（Windows XP Professional の場合）

セットアップは基本的には、ハードディスクのフォーマットを行った後に Windows セットアップが開始される流れになります。フォーマットとは記憶装置固有のデータ記録方式のことで、その方式に従って記憶媒体を初期化することを言います。すでに利用されている場合、ディスクのフォーマットを行うとそれまでに記憶されたデータは全て消去されます。Windows の再セットアップをする際や新しいハードディスクを使える状態にする場合に必要となります。

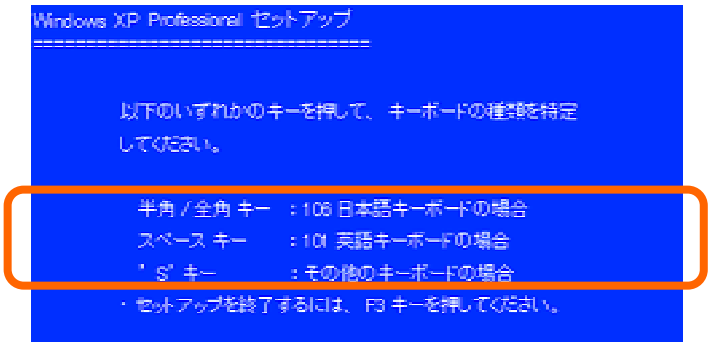
（WindowsXP Professional）

WindowsXP のセットアップが始まります。オペレーティングシステムによって表示が異なりますが、どのオペレーティングシステムも流れはそれほど変わりません。メッセージに従って選択しながらセットアップ作業を行います。



セットアップを開始しますので、「Enter」キーを押します。

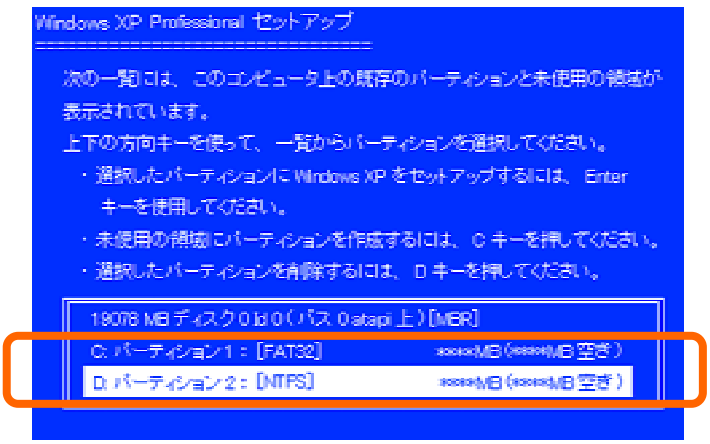
キーボードの種類を選択します。ご使用になっているキーボードの種類に応じて、画面で指示されているキーを押してください。



日本語キーボードの場合、「半角/全角」キーを押します。

６．セットアップするディスクを選びます

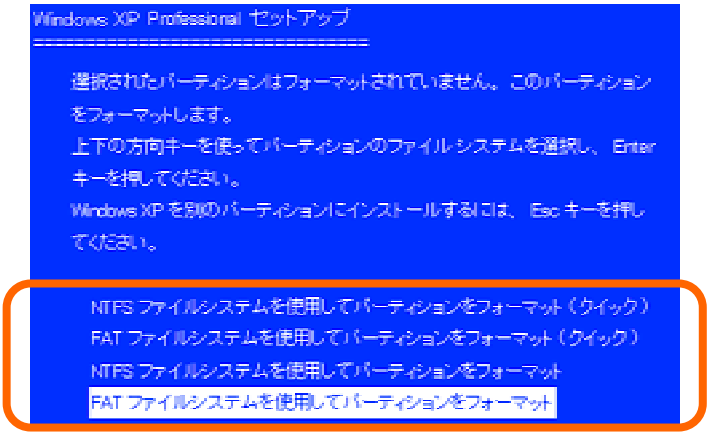
ディスクのパーティッションが別れている場合は、右図のように、「C:」、「D:」のような、二つのディスクが存在します。通常は「C:」ドライブがアクティブになっているはずなので「C:パーティッション1」を選択します。選択した「C:」ドライブのデータが完全に消去され、そこに Windows がセットアップされます。


Windows XP Professional セットアップ
次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。
上下の方向キーを使って、一覧からパーティションを選択してください。
・選択したパーティションに Windows XP をセットアップするには、Enter キーを使用してください。
・未使用の領域にパーティションを作成するには、C キーを押してください。
・選択したパーティションを削除するには、D キーを押してください。
19078 MB ディスク 0 id 0 (バス 0 atapi 上) [MBR]
C: パーティション 1 : [FAT32]
D: パーティション 2 : [NTFS]

7．ディスクのフォーマット形式を選択します

フォーマット形式を FAT システムまたは NTFS システムかで選択します。

さらに、クイックフォーマットか通常フォーマットか選択できます。クイックフォーマットは短時間で出来ますが、ディスクの不良箇所の検査を省略しているためお勧めはしません。通常は安全のため、時間はかかりますが「通常フォーマット」を選択してください。



■NTFS　ファイルシステム

NTFS は、WindowsNT、Windows2000 に導入されたシステムで、FAT に比べて信頼性が高いことが特徴です。WindowsXP、Windows2000 の場合は、NTFS でのフォーマットを推奨します。Windows95、Windows98、Windows98SecondEdition、WindowsME には対応していません。

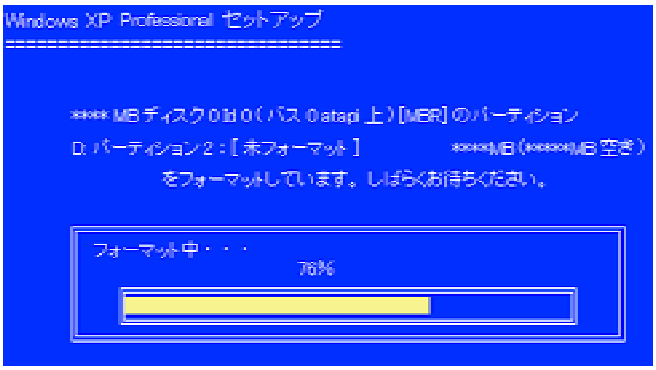
■FAT　ファイルシステム

FAT は、FAT16 と FAT32 の 2 種類があり、後期の Windows95 から採用された方式です。その他、Windows98、Windows98SecondEdition、WindowsMe、WindowsXP が対応しています。

WindowsNT または、Windows2000 環境であれば、ファイルシステム自体を FAT から NTFS に変換することは出来ますが、NTFS に変換した後は、ハードディスクの内容を保持したまま FAT に戻すことや、FAT 変換することは出来ません。FAT で使用したい場合は、一度ハードディスクの領域（パーティッション）を削除して、再びパーティッションを作成した後に、FAT でフォーマットする必要があります。また、FAT システムから、NTFS システムのファイルを見ることは、基本的には出来ません。

8．（ＨＤＤ）ディスクのフォーマット

■フォーマット時の画面



フォーマットが開始されます。フォーマット中は電源を絶対に切らないで下さい。また、ノートパソコンの場合は、バッテリーのみでの使用は避けてください。ハードディスクが壊れるなどの危険性があります。

フォーマットが完了すると、Windows のセットアップが開始されます。画面上の指示に従ってセットアップを行ってください。

【 ドライバのインストール方法 】

Windows のインストールが終了したら、すぐに使えるというわけではありません。何よりも先にチップセットドライバなどのデバイスドライバーをインストールする必要があります。特に、使用するオペレーティングシステムよりも新しいマザーボードを私用している場合には、チップセットドライバをインストールしないと必ず不具合が起きると思っても間違いではありません。

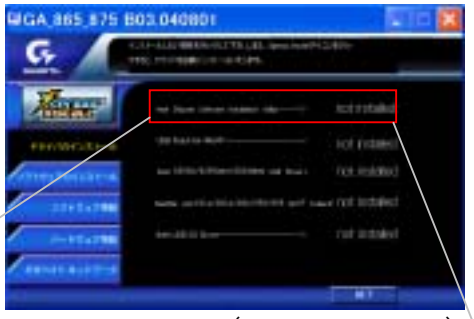
チップセットとは、マザーボード上に付いているコントローラーチップのことで、コンピュータ内部で、CPU やメモリ、拡張カードなどのデータの受け渡しを管理する一連の回路群のことです。電源管理の制御や AGP、USB といった新しいポートやバスの動作、そしてメモリアクセスに関する設定を行うためにチップセットドライバが必要となります。実際のインストール作業にあたっては、自己責任で行うこととなります。

（※メーカー製パソコンの中には、リカバリーディスクが付属している商品があります。商品購入時の状態に自動的に戻してくれるもので、デバイスドライバーなどのインストールが必要ないものもあります）

1．チップセットドライバのセット

Windows が起動したら、マザーボードまたは、パソコンに付属されているチップセット専用設計のドライバーCD-ROM を挿入してください。CD ドライブが自動通知に設定されていれば、そのまま自動的にセットアップ画面が表示されます。

■セットアップ画面



（MB/GA-8IK1100）

メニューからチップセットドライバのセットアップを選択します。

操作画面は各メーカーで用意されたドライバーCD によって異なりますが、「Chipset」などと表示されている事が多く、最近では自動インストールなど、ワンタッチで全て入れてくれるものもあります。CPUやメモリなど、パーツによって様々な仕様があり、多種多様な種類のチップセットがあるので、それぞれセットアップ画面やセットアップ方法が異なってきます。マザーボードなどマニュアルがあれば、そちらを参考に作業を行います。

（※再起動などの指示が出た場合には必ず画面の指示に従って行って下さい）

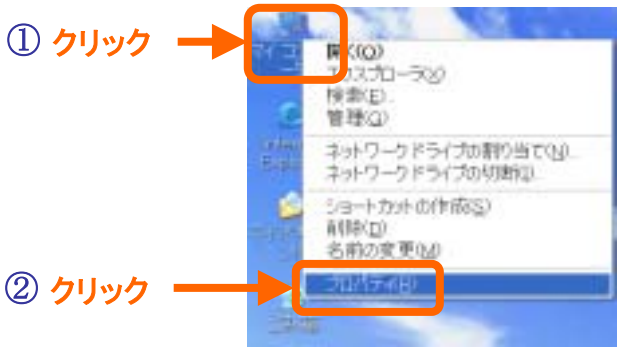
2．デバイスマネージャーの表示

チップセットドライバのセットアップが終了したら、[デバイスマネージャ]で接続された機器などが正常に動作/認識されているか確認します。

デバイスマネージャとは、機器を管理するためのツールのことで、デバイスの詳細な情報を確認することや、機器を動作させせるためのファイルの更新や削除などが行えます。

デバイスマネージャ呼出し手順例

（WindowsXP）



■　手順　1

「マイコンピュータ」を右クリックして、メニューから「プロパティ」をクリック。

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

■　手順　2

■Windows 98/Me

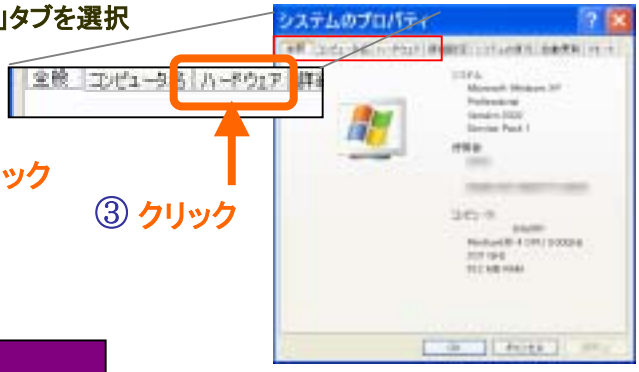
「デバイスマネージャ」タブをクリック。

■Windows 2000/XP

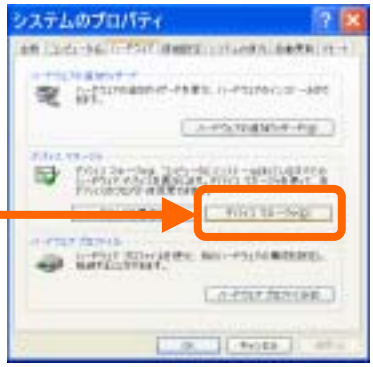
「ハードウェア」タブをクリック。

「デバイスマネージャ」ボタンをクリック。

■システムのプロパティ画面



「デバイスマネージャ」ボタンをクリック

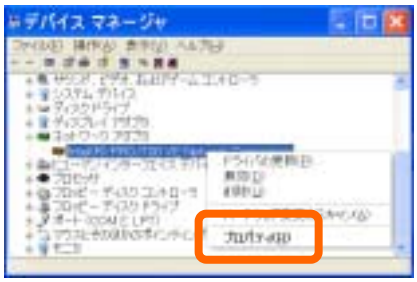


「デバイスマネージャ」が表示されると、現在パソコンに接続された機器が一覧表示されます。各項目の左側に、「×」や「！」が表示されている場合は、そのデバイスについて正常に動作していないことを示しています。

■「×」マークが表示されている場合

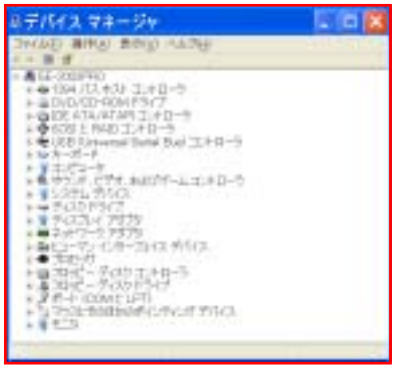
＜無効＞

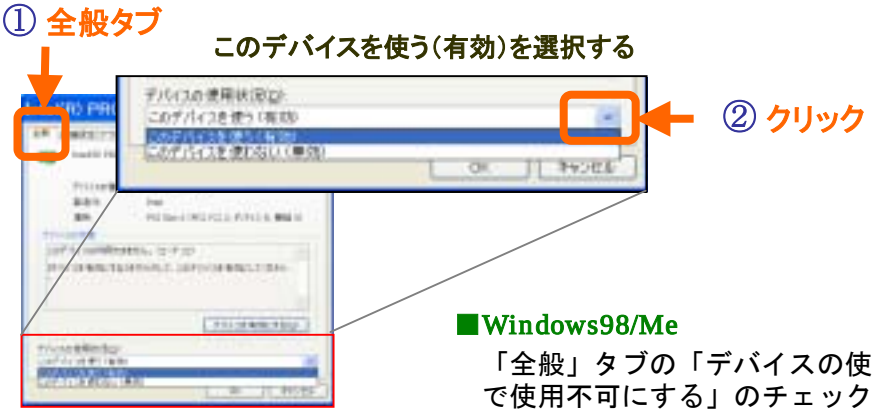
何らかの原因でデバイスの使用が無効に設定されています。必要に応じて、デバイスを有効にする必要があります。



有効にするには、「×」マークが表示されているデバイスを「右クリック」して、メニューから「プロパティ」をクリックします。

■デバイスマネージャ画面





■Windows98/Me

「全般」タブの「デバイスの使用」で、「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のチェックをはずします。

■Windows2000/XP

「全般」タブの「デバイスの使用状況」で、「このデバイスを使う（有効）」を選択します。

＜有効＞

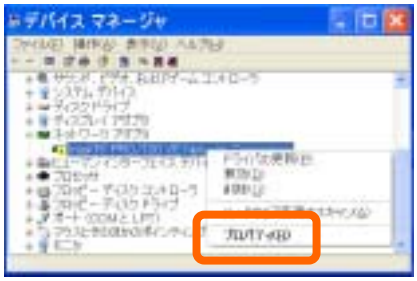
「×」マークの表示が消えて、デバイスの使用状況が有効になります。

■「！」マークが表示されている場合

「！」マークが表示されている場合は、デバイスドライバに問題があるか、デバイスドライバが入っていません。チップセットのセットアップ終了時の段階では、まだいくつか「！」マークの表示されているデバイスがあることがあります。

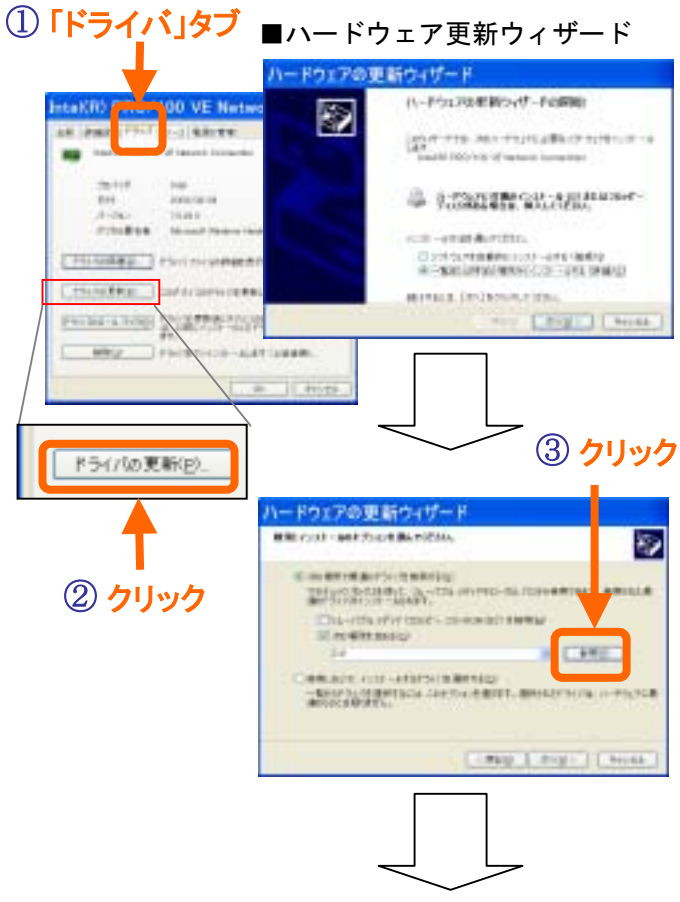
この状態ではデバイスは動作しません。

デバイスを動作させるためには、そのデバイス専用のドライバを入れる必要があります。



デバイスドライバを更新、またはデバイスドライバをインストールする場合には、マウスで「！」マークの付いているデバイスを「右クリック」して、メニューから「プロパティ」をクリックします。

「ドライバ」タブで、「ドライバの更新」ボタンをクリックします。



■Windows98/Me

「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。「次へ」ボタンをクリックします。「現在使用しているドライバよりさらに適したドライバを検索する」を選択して、「次へ」ボタンを押します。「検索場所の指定」にチェックを入れてから「参照」ボタンをクリックします。

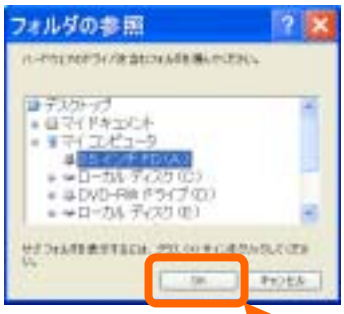
■Windows2000

「デバイスドライバのアップグレードウィザード」が表示されます。「次へ」ボタンをクリックします。「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択してから「次へ」ボタンを押します。「場所を指定」にチェックを入れてから「次へ」ボタンをクリックします。

■WindowsXP

「ハードウェアの更新ウィザード」が表示されます。「一覧または特定の場所からインストールする」を選んでから、「次へ」ボタンをクリックします。「次の場所で最適のドライバを検索する」を選択して「次の場所を含める」にチェックを入れてから、「参照」ボタンをクリックします。

■ドライバの場所指定



④ クリック

■ドライバインストール画面

⑤ クリック

■Windows98/Me

対象となるデバイスドライバの場所を指定して「OK」ボタンをクリックします。「次へ」ボタンをクリックします。デバイスドライバがインストールされます。「次へ」ボタンをクリックしてから、最後に「完了」ボタンをクリックします。

■Windows2000/XP

対象となるデバイスドライバの場所を指定して「OK」ボタンをクリックします。「次へ」ボタンをクリックします。デバイスドライバがインストールされます。最後に「完了」ボタンをクリックします。

「！」マークが消えて、デバイスが使える状態になります。

全てのデバイスドライバがインストールされて、「！」マークや「×」マークの表示が消えた状態になっていれば、とりあえずデバイスが使える状態になったと言えます。

◇ 注意事項

デバイスドライバのセットアップ作業は各自の責任で行うことになります。まずは利用しているデバイスの型式番号や、インストールされているデバイスドライバのバージョンを確認する必要があります。間違った型式のデバイスドライバを入れてしまった場合、動作が不安定になることや、トラブルの原因となるので十分な注意が必要です。

【 取扱い上のご注意 】

パソコンの設置場所は、まわりに障害物がない場所を選びパソコン内部の温度が上がらないようにします。平らで安定した机の上などに置き、キーボード、マウスの操作が出来るスペースを十分に確保してください。
タコ足配線はしないようにしてください。電源が入らない場合や発火などの原因になります。

≪設置場所の注意≫

次のような場所でのご使用は避けてください

- ■ ホコリの多い場所
- ■ 直射日光を受ける場所
- ■ 水など液体のかかる場所
- ■ 湿度の高い場所(80%以下で結露しないこと)
- ■ 極端に高温（35℃以上)、または低温（10℃以下）になるような場所
- ■ 振動や衝撃の加わるような場所
- ■ 磁気の発生するようなものの近くなど

水分は得に大敵です。湿度の高い場所での使用や、ジュース等の液体をキーボードなどにこぼしたりすると故障の原因になります。また、磁気の多い場所での使用もパソコンにとっては大敵です。パソコンは磁気を使ってデータを保存しています。磁気が発生するものを近づけたりすると、データの消失等、トラブルの原因となります。

≪作業環境≫

室内はできるだけ明暗の対比が著しくなく、まぶしくない照明環境にしてください。また、必要に応じて補助照明等を使用してください。周辺環境に高輝度な照明機器や太陽光などまぶしさを感じるような事や、点滅するような光源、ディスプレイへの照明や外光の映り込み（グレア）などがあると、ディスプレイの文字が見にくくなり、作業に支障をきたしたり、眼疲労などの原因となります。販売されているＶＤＴフィルタなどでグレア防止や、それと同時に、紫外線、画面のチラツキ、静電気、電磁波、Ｘ線などを除去させることも出来ますが、画面全体が暗くみえることもあり、精密作業に不向きになってしまう可能性もあります。

≪正しい姿勢で行いましょう≫

イスに深く腰をかけて背筋をのばし、背もたれに背をつけます。そして足の裏全体が床にぴったりつくようにイスの高さを調節してください。必要に応じて足台などを使用してください。 また、正しい姿勢でも同一姿勢をとり続けると疲労の原因となります。時々は座布団を敷いて高さを変えたり、腰の位置を前にずらしたりして姿勢を変えることも重要です。また、キーボードの位置が肘より多少下になるようにしてください。
ディスプレイは画面の上端が目の位置より下になるようにし、視線とディスプレイの角度は 80°から 90°に調整してください。また、視距離は 40～70cm、ひじの角度は 90°またはそれ以上を確保できるようにしてください。

≪作業時間≫

連続 1 時間以上の作業はとらないようにする。1 時間に 10～15 分の作業休止時間を設け、他の作業を行うようにしてください。 特にデータ読み取り、ワープロ等については作業時間、作業休止時間の管理を遵守してください。1 時間の作業内に 2～3 分の小休止をとるようにし、ストレッチ運動などで 1 日に何度かその場でできるような体操を行う事も必要です。頻繁に短い休憩をとるほうが、回数の少ない長時間休憩をとるよりも効果的です。長時間のやり過ぎはＶＤＴ症候群といった、視力低下、眼疲労、頭痛や食欲不振など、様々な障害をきたす可能性があります。

≪電源について≫

電源は、そのコンピューターに定められた電源規格のものをご使用ください。瞬間的に AC 入力が 90V 以下になるもの（コンプレッサの使用など）とは、別コンセントの引き込みから使用するようにして下さい。データ不良等の原因となります。

≪日常のお手入れ≫

作業前には必ずパソコンや周辺機器の電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜き取ってください。

■本体／通風孔／電源／接続ケーブルなど

ホコリの出ない、乾いた柔らかい布で拭きます。汚れが目立つ時は市販の OA クリーナーなどを使ってください。基盤上のホコリなどは掃除機等を使うと静電気で IC が壊れる可能性がありますので、エアースプレーなどをご使用下さい。

■キーボード／マウス

キーボードは構造上ホコリがたまりやすくなっていますので、注意深く持ち上げ、逆さにして振ったり、軽くたたくなどして内部の誇りや落下物を取り除きます。キーの隙間など狭い部分は綿棒やエアースプレーなどを利用して掃除すると良いです。

ボール式のマウスは汚れが付くとマウスカーソルがスムーズに動かなくなることがあります。マウス裏のカバーを取り外し、ボールやボール接触面部分の縦、横のローラーまたはシャフトに付着したゴミを布などで取り除きます。

■ディスプレイ／モニタ

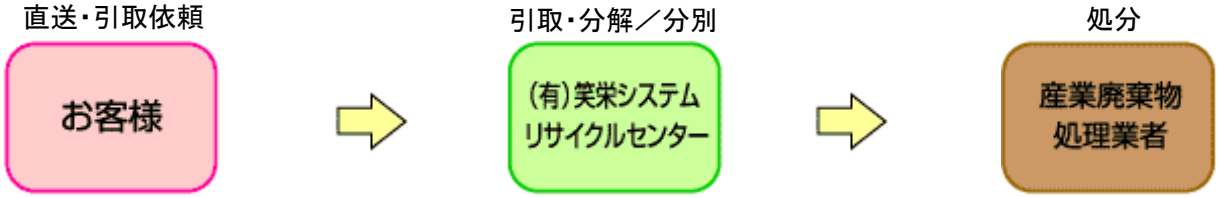
ホコリの出ない、乾いた柔らかい布で拭くか、OA クリーナーなどで拭きます。TV フィルターやコーディングしてあるディスプレイの場合は、取扱説明書をよく読んでからお手入れしてください。

【 回収／リサイクルについて 】

平成 15 年 10 月より、「資源回収利用促進法」に基づき、家庭から出される使用済みパソコンの回収・リサイクルをするＰＣリサイクルが開始されました。使用済みパソコンを再資源化することにより、廃棄物の削減と資源の有効利用の促進を目指すものです。弊社でもパソコンの買取り、また、弊社パソコンの回収処分、リサイクル業務を行っております。リサイクル PC 購入をご検討の方や、使っていた PC や周辺機器を売りたい方も、お気軽にご来店下さい。

リサイクル回収システムのご案内

（1） 使用不可パソコン／周辺機器／廃棄

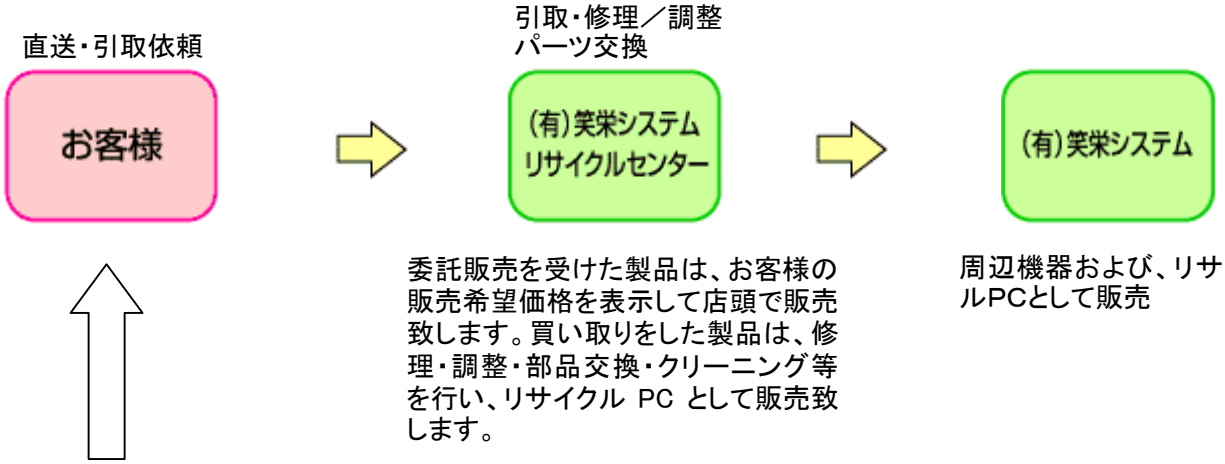


■店頭持ち込みおよび直送の場合
基本回収料金＋基本処分料金
■出張引取
基本回収料金＋基本処分料金＋出張料金

専門スタッフが査定をして「コンピュータ・周辺機器回収処分確認書」にてお客様に必要な料金を提示致します。お客様が合意されれば、引き取って分解・分別をします。再利用できるパーツ等は修理・調整をします

鉄・アルミ・貴金属・プラスチック・その他に分類し再生利用または処分をします。

（2） 使用可能なパソコン



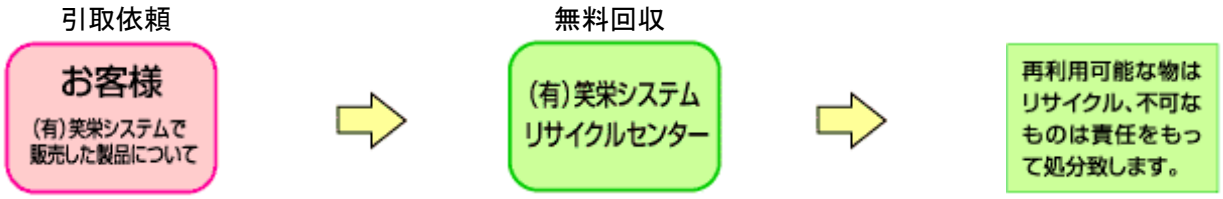
委託販売を受けた製品は、お客様の販売希望価格を表示して店頭で販売致します。買い取りをした製品は、修理・調整・部品交換・クリーニング等を行い、リサイクル PC として販売致します。

周辺機器および、リサイクルPCとして販売

■委託販売システム
お客様の店頭持ち込みまたは直送（送料お客様負担）により届いたパソコンのスペックおよび動作確認を行います。お客様ご自身が販売したい価格を決めて、販売委託をしていただきます。この場合、販売委託料といして販売価格の 20%を申し受けます。

■買い取りシステム
お客様に持ち込んでいただいたパソコンのスペックおよび動作確認を行います。専門スタッフによる査定後、「中古製品引取確認書」にて買い取り価格を提示致します。お客様が合意されれば、後日、お客様の指定口座に振り込みを致します（振込手数料はお客様負担）。直送（送料お客様負担）していただく場合は、事前に電話またはメールでメーカー名・製品名・年式・スペック・動作状況をお知らせ下さい。買い取り上限価格をお知らせしますので、合意された後、発送して下さい。ご希望により、出張引取（有料）も承ります。

（3）平成 15 年 4 月以降、リサイクル対応商品について



電話またはメールにて、処分したい製品の製品名・シリアルナンバーをご連絡いただきます。弊社で確認後引取を致します。店頭に持ち込んで頂ければ回収・処分費用は無料です。宅配便で直送の場合、送料はお客様負担となります。また、ご希望により出張引取（有料）も承ります。

再利用可能なものはリサイクル、再利用不可なものについては責任を持って処分致します。ご依頼の回収・処分が完了した旨をメール・FAX・郵送のいずれかで、お客様にご連絡致します。

周辺機器および、リサイクルPCとして販売

※無資格でリサイクル業務を行っている業者も増えておりますのでご注意下さい。
弊社は正式に古物商許可（リサイクル営業許可）を取得し、昨今問題となっておりますデータ消去につきましても責任をもって対応しております。

【 保証／メンテナンスについて 】

弊社の正規製造販売品には、一年間の保証がついています。システム製品の電子部品（マザーボード、CPU、メモリーなど）も同様に１年間の部品保証があります。また、部品メーカーによっては、３年間保証されるものもありますが、2、3年目に修理を行った場合は部品代以外（作業代等）は請求対象となることがあるようです。

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>技術料</th><th>作業代</th><th>部品代</th><th>運送費</th></tr>
<tr><td rowspan="2">保障期間内</td><td>１年保証</td><td>無料</td><td>無料</td><td rowspan="2">無料</td><td rowspan="2">住路の場合
元払い（お客様ご負担）
復路の場合
基本作業料に含む（弊社負担）</td></tr>
<tr><td>３年保証</td><td>2･3 年目に修理を
行った場合
￥8, 925</td><td>2･3 年目に修理を
行った場合
￥3, 675/1H</td></tr>
<tr><td rowspan="3">保障期間外</td><td>有料修理</td><td>￥8, 925</td><td>￥3, 675/1H</td><td>販売価格</td><td>住路の場合
元払い（お客様ご負担）
復路の場合
基本作業料に含む（弊社負担）</td></tr>
<tr><td>有料修理をして、返却日より１ヶ月以内に同一箇所が原因の故障修理の場合</td><td>無料</td><td>無料</td><td>無料</td><td>住路の場合
着払い（弊社負担）
復路の場合
基本作業料に含む（弊社負担）</td></tr>
<tr><td>メーカー修理を行った場合
（原則として、保証期間が終了後、お客様の希望による修理）</td><td colspan="3">メーカーからの請求額 ＋ 管理費
※ 修理品がこちらに届いて、「修理費の見積依頼」、「修理費高額の為、修理中止」の場合、不具合箇所の特定作業を行っているので基本作業量￥8,925 は請求させていただきます。また、作業開始時にお客様へ説明し、承諾をいただく場合があります。</td><td>住路の場合
元払い（お客様ご負担）
復路の場合
元払い（お客様ご負担）</td></tr>
</table>

≪保証期間内の有料修理について≫

保証書に記載された期間内でも、以下の事項に該当する場合には有料修理なりますのでご了承ください。

■保証書をご掲示されない場合や、保証書の所定事項の未記入、字句を書きかえられた場合、または販売店名の記入のない場合。
■お客様による輸送、移動時の落下、衝撃等などお客様の取り扱いが適切でないために生じた事故または損傷の場合。
■火災、地震、落雷、水害等の天災事変、公害や異常電圧などの外部要因に起因する故障または損害の場合。
■お客様による改造、修理等ご使用上の責任に帰すると認められる故障または損傷の場合。
■本製品に接続している弊社以外の機器及び消耗品に起因する故障または損傷の場合。
■正常なご使用でも消耗品が自然消耗、劣化した場合。
■本書記載の注意事項を守らずに起きた故障または損傷の場合。
■本製品、または弊社製品システム以外にお客様、または第三者がソフトなどを導入したことによるソフトウェア的なトラブルからの故障、損傷の場合。

笑栄システム出張サービス

<table>
<tr><th>サービス</th><th>サービス内容</th><th colspan="2">料金</th></tr>
<tr><td>サービスパック</td><td>製品ご購入時、パソコンを即使用可能な状態にセットアップするサービスです。お客様の要望に合わせたコンピュータシステムをご提供致します。</td><td rowspan="4">一般ユーザー
１時間の場合
￥9,450+主張費
２時間の場合
¥18,900+出張費</td><td rowspan="4">笑栄ユーザー
１時間の場合
￥6,300+主張費
２時間の場合
¥12,600+出張費</td></tr>
<tr><td>製品設置サービス</td><td>製品をご購入されたお客様に代わり、自宅または会社・事務所等へ出張し、製品の設置後、動作確認を行います。</td></tr>
<tr><td>LAN セットアップ</td><td>複数台のパソコンをネットワーク接続し、ファイル共有やソフトウェア共有等を利用できる状態にセットアップします。</td></tr>
<tr><td>インターネットセットアップ</td><td>ご利用のパソコンをインターネットに接続し、ホームページ観覧およびメールが使用できる環境にします。モデム・TA・ルータ等関連周辺機器のセットアップも行います。</td></tr>
<tr><td>出張修理</td><td>お客様のご指定の場所へ技術スタッフを送り、修理対応致します。弊社でのご購入の製品はもちろん弊社以外でお買い求めの製品についてもお気軽にお申し付け下さい。</td><td>他社でご購入の製品
技術料¥15,750
+作業代¥4,725/1H
+出張費</td><td>弊社でご購入の製品
技術料¥8,925
+作業代¥3,675/1H
+出張費</td></tr>
<tr><td>講習</td><td>ご利用のパソコンで、お客様が操作する中で、分からないところだけを講習する事が出来ます。知りたいところだけが講習できますので、時間の節約、作業効率の向上にもなります</td><td>他社でご購入の製品
講習代¥3,150/1H</td><td>弊社でご購入の製品
講習代¥3,675/1H</td></tr>
</table>

出張費について

10Km 以内の場合　　一般ユーザー：¥5,250　　笑栄ユーザー：¥3,150

（10Km 以上は別途見積もりとなります）

【 パソコンで使用される周辺機器／パーツの説明 】

≪CDROM ドライブ≫

ＣＤに記録されたデータを読み取る装置です。

≪CD-R ドライブ≫

現在ではほとんど見かけなくなりましたが、ＣＤＲの読み書きと、ＣＤＲＯＭの読み出しを行う装置です。ＣＤ－Ｒとは書き込みの出来るメディアの事で、通常のＣＤと互換性があります。ただし、一度書き込んだデータ等は消去・上書きは出来ません。

ＣＤＲドライブはＯＳ（オペレーティングシステム）よりＣＤＲＯＭドライブとして認識されるため、ＣＤ－Ｒへの書き込みを行う場合は、専用の書き込みソフトが必要です。ただし、Windows XP に関しては、最初から書き込み機能をサポートしています。ＣＤＲメディアは書き込みに失敗すると使用できません。

≪CD-RW ドライブ≫

ＣＤＲ/ＲＷの読み書きと、ＣＤＲＯＭの読み出しを行う装置です。ＣＤＲＷとは書き込み・消去できるメディアで通常の記録メディアと同じように扱えますが、一部、古いＣＤ－ＲＯＭドライブや、音楽ＣＤプレーヤーでは再生出来ない場合があります。ＣＤＲドライブと同様、

ＯＳによりＣＤＲＯＭドライブとして認識されるため、書き込みの際には、専用の書き込みソフトが必要です。ＣＤＲとは違い、ＣＤＲＷメディアは書き込みに失敗しても、消去すれば新たに書き込むことができます。

≪DVD-ROM　ドライブ

ＤＶＤに記憶されたデータを読み出す装置です。ＤＶＤ－ＲＯＭ、ＣＤ－ＲＯＭ，ＣＤ－Ｒ、ＣＤ－ＲＷの４種類のメディアはほぼ全て読み出せます。

≪DVD-R ドライブ≫

一度だけ書き込み可能なＤＶＤである、ＤＶＤ－Ｒの読み書きを行う装置です。ＣＤＲ/ＲＷの書き込みは得に対応していなければできない。ＣＤＲＯＭ、ＣＤＲ、ＣＤ－ＲＷ、ＤＶＤ－Ｒを読み出せます。

≪DVD＋R ドライブ≫

DVDROM に近い形での記録を行うため、規格レベルでは DVD-R より高い再生互換性を持っています。しかし、DVD+R は DVD-R より後に発売されため、市販の DVD プレーヤーや、その他ほとんどのドライブが既に DVD-R への対応を済ませてしまっているため、実際の再生互換性は DVD-R に劣ります。

≪DVD-RW ドライブ≫

CDRW のような書き換え可能型の DVD 規格で、レーザーの反射率などごく一部を除き、DVD-R と同等の性能を持っています。ただし、レーザー反射率が低いことが原因となって再生が不可能になる DVDROM ドライブもあるため、DVD-ROM ドライブでの再生互換性は DVD-R に多少劣ります。最大記録容量は DVD-R と同じ 4.7GB(DVD-R のような 3.95GB 版は存在しない)。なお DVD+RW とはまったく互換性を持ちません。

≪DVD＋RW ドライブ≫

CDRWのような書き換え可能型のDVD規格でDVD－RWと比べてDVDROMと仕様上の互換性が高く、多くのDVDROMドライブで読み出せることがメリットとされています。記憶容量は初期のものが片面 3.0GB で、現在は DVDROM と同じ片面 4.7GB です。DVD-RW とはまったく互換性を持ちません。

≪DVD±RW ドライブ≫

DVD の「+」と「ー」の両方に対応した書き換え可能な DVD 規格で、DVDROM、DVD+R、DVD+RW、DVD-R、DVD-RW、CDROM、CDR、CDRW の８種類のメディアにそれぞれ対応しています。

※DL 対応

最近 DL 対応 、または +R 片面 2 層 と書かれている光学ドライブが多く見られますが、これはダブルレイヤー対応のことで、今までの DVD の容量 4.7GB の２倍の 8.5GB の容量になった DVD+R DL に書き込めることを意味します。今まで DVD には片面に一層しか書き込めませんでしたが、片面に二層書き込めるようにしたことによって容量の２倍化を実現しています。容量の大きい映像などの保存に最適ですね。オススメはスーパーマルチドライブ DL 対応です。

≪DVD-RAM ドライブ≫

データ記録用として用意された何度でも書き換え可能な DVD で、DVD-RAM の読み書きを行う装置です。最大容量は片面 4.7ＧＢで、DVDRAM の他、CDROM、CDR、CDRW、DVDROM、DVDR、DVDRW の読み出しが可能です。しかし DVDROM との互換性が比較的低いようです。

≪ハイパーマルチドライブ≫

スーパーマルチドライブの後継として登場し、全 CD と DVD メディアに対応した DVD ドライブです。スーパーマルチドライブに DVD±R 片面２層ディスク対応機能追加した装置です。（※写真ははめ込み画像です）

≪ZIP ドライブ≫

Zip ディスクの読み書きを行う装置です。フロッピーディスクなど他の媒体への互換性はありません。１枚当たりの容量が、100ＭＢまたは 250ＭＢがありますが日本ではＭＯ（光磁気ディスク）が普及したために、あまり普及していない。

≪MO ドライブ≫

MOディスクにデータを読み書きする記憶装置です。メディアの大きさは 3.5 インチと 5 インチのものがあり、容量は 128MB、230MB、540MB、640MB、1.3GB、2.3GB などの種類があります。（※写真ははめ込み画像です）

≪キーボード≫

タイプライターのように指でボタンをたたく事で、コンピュータに文字を入力する装置です。英字、カナ、数字、記号などが刻印されたボタンが配列されておりそれぞれのキーを押すと対応した文字がコンピューターに送られます。

さらにシフトキーやコントロールキーなどの補助キーとの組み合わせで同じボタンでも、どの文字を入力するか選べるようになっている。（※写真ははめ込み画像です）

≪マウス≫

表にボタン、裏にボールが付いた小さい入力装置です。机上で滑らせることによりボールが回転し移動方向、移動速度などがコンピューターに入力されます。画面上には、マウスの動きに合わせて小さなキャラクター（カーソル）が表示され、それをマウスで操ることによりコンピューターを操作します。

最近ではボールではなく光学的に移動する光学式マウスやコンピュータとマウスとの接続のケーブルを取り去った赤外線式のワイヤレスマウスなどがあります。（※写真ははめ込み画像です）

≪フロッピーでイスクドライブ（FDD）≫

デスクトップ(内臓型)　ノート(内臓型)

フロッピーディスクの読み取り、書き込みを行う装置です。磁気ヘッドを接触させてデータの読み書きを行います。（※写真ははめ込み画像です）

≪ハードディスクドライブ（HDD）≫

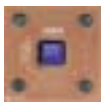
3.5 インチ　　2.5 インチ

代表的な外部記憶装置です。ディスクは、ノートパソコン向けのものは、2.5 インチサイズ。デスクトップパソコン向けのものは 3.5 インチがそれぞれの主流になっています。コンピュータとの接続には IDE、S-ATA、SCSI などがあります。（※写真ははめ込み画像です）

※ANSI 規格名

ATA、ATA-2、ATA-3、ATA-4、ATA-5、ATA-6、ATA-7、SerialATA といったように、規格が時代と共に替わり、速度も上がっています。現在では、SerialATA が主流になりつつありますが、今でもまだ多くのユーザーが ATA-6(UltraATA100)、ATA-7(UltraATA133)を使用しています。今後 SerialATA(UltraATA1500)が主流になると言われています。

≪CPU（中央演算装置）≫



コンピュータの中で、各装置の制御やデータの計算・加工を行う中枢部分です。入力装置や記憶装置からデータを受け取り、それを演算・加工した上で出力装置や記憶装置に出力します。（※写真ははめ込み画像です）

CPU は主に intel 社と AMD 社が製造しているものがあります。現在主流となりつつある CPU は、intel 社であれば、Pentium4 以上。AMD 社であれば、Athlon64 以上のものが多いようです。最近では、モバイル系の PentiumM など省電力 CPU も多くパソコンに搭載されるようになってきました。

※HT

ハイパー・スレッディング対応という意味で、一つの CPU を 2 つあるようにすることで、従来の CPU よりも処理能力を高くする技術です。この技術により、複数のアプリケーションを同時に動かすような処理にも、快適に行えるようになってきました。また、一つのアプリケーションでも、アプリケーションが対応してれば HT 対応 CPU により動作が高速化されます。

≪タッチパッド（Touchpad）≫

ノートパソコン用の入力装置です。パネル上を指でなぞることで、画面上のキャラクター（カーソル）を操作することでコンピューターを操作します。１度のタッチがマウスに例えると「クリック」、続けざまに２度タッチすると、ダブルクリックと同じ働きをします。（※写真ははめ込み画像です）

≪Bluetooth≫

携帯情報機器向けの無線通信技術でノートパソコン、PDA、携帯電話等にケーブルを使わず接続し、音声やデータなどをやりとりすることができます。

≪モデム≫

変複調装置の略で、コンピュータのディジタルデータを音声信号に変換して電話回線に流したり、電話回線を通じて聞こえてくる音声信号をディジタルデータに変換したりします。主にインターネットなどに使われます。

≪PC カメラ≫

動画や写真など、パソコンなどに取り込むための入力装置です。

≪LAN カード≫

PCI カード型

PC カード型

パソコンやプリンタなどを共有接続するのに使われます。ADSL、CATV などのインターネット接続にも使われます。（※写真ははめ込み画像です）

≪メモリー≫

コンピュータの中で、データやプログラムを記憶する装置で、「主記憶装置」とも呼ばれます。電源を切ると内容が失われます。利用者がプログラムをデータ加工する際に、必要なものだけメインメモリに呼び出して使います。

PC133 SD-RAM 168 ピン

PC2100 SD-RAM 184 ピン

PC2-4300 SD-RAM 240 ピン

PC800 Direct RDRAM 184 ピン

■SD-RAM
168 ピンで PC66、100、133 の規格があります。（※写真ははめ込み画像です）

■DDR SD-RAM
SD-RAM に代わってメモリの主流の地位を占めるようになったメモリです。現在ほどんどのパソコンに導入されています。184 ピンで PC1600（200MHz）、2100（266MHz）、2700（333MHz）、3200（400MHz)規格があります。ノート用は 200 ピンです。（※写真ははめ込み画像です）

■DDR2 SD-RAM
現在主流となりつつある DDR SD-RAM の後継メモリです。240 ピンで PC2-3200（DDR2-400MHz）、PC2-4300（DDR2-533MHz）、PC2-5400（DDR2-667MHz）、PC2-6400（DDR2-800MHz)などの規格があります。ノート用は 200 ピンです。（※写真ははめ込み画像です）

■RDRAM
Ramubus 社が開発した、高速メモリチップの名称です。
184 ピンで PC800（800MHz)、PC1066（1066MHz）、PC1200（1200MHz）規格があります。
（※写真ははめ込み画像です）

※デュアルチャンネル

メモリが同じ 512MB でも 512MB メモリ１枚の場合と 256MB メモリ２枚の場合があります。これはデュアルチャンネルと呼ばれメモリを２枚にすることで理論上２倍のデータ転送速度をだすものです。しかし両者を比べても劇的に動作速度が違うほどでもなです。また、デュアルチャンネルにしようと後からメモリを加えて２枚にするときは同規格のメモリを使わないとトラブルが発生します。同じものを使うか、同じものが店頭等で見つからなければ前に使っていたのを売り、新しいメモリ２枚使いましょう。ただしお使いのパソコンがデュアルチャンネルに対応している事が条件となります。

≪プリンター≫

コンピュータで作成した、文字データや画像データ、図形データなどを紙などに印刷する装置です。プリンタあにはインパクト方式とノンインパクト方式の 2 種類に大別され、ノンインパクト方式は「熱転写プリンタ」、「インクジェットプリンタ」、「レーザープリンタ」などの方式があります。現在最も普及しているのはインクジェット方式とレーザー方式で、インクジェットプリンタは安価で小型なため、家庭などで広く利用されていますが、インクを用いるため精細な印刷はできず、また印刷速度も遅いです。レーザープリンタはコピー機と同じ原理で、比較的高価ですが印刷速度が速く、精細な出力が得られるので、主にオフィスなどで利用されています。

≪PC カードスロット≫

ノートパソコン向けの拡張カードの統一規格。LANカード、モデムカード、フラッシュメモリーカード、SCSIカードなどに利用されます。PCカードはカードの厚さによって、Type-1・Type-2・Type-3 と分けられます。（※写真ははめ込み画像です）

■TYPE-1 …… 厚さ 3.3mm でメモリーカード等に使用されています。
■TYPE-2 …… 厚さ 5mm で、現在ではノートパソコン向けの仕様として最も多く普及しており、ありとあらゆる拡張インターフェースとして使われています。
■TYPE-3 …… 厚さ 10.5mm で、ハードディスクなどに利用されます。中には Type-2 のハードディスクもあります。

【 トラブルシューティング 】

≪ウィルスに注意≫

新しいウィルスは日々発見されており、コンピュータに感染したウィルスによっては、コンピュータに深刻な破損やデータの消失につながるものもあります。インターネットやＥメール、その他ファイルなど、ありとあらゆるものにウィルス感染の可能性があります。ウィルス防止プログラムなどの対策をとり、パソコンを守る必要があります。ウィルス防止プログラムは多種類のものが市販されています。代表的なものでは、「ウィルスバスター」、「ノートンアンチウィルス」、「McAfee」などがあります。

■見覚えのない差出人からのEメール開封には十分に注意してください。多くのウィルス感染はEメールの添付ファイルによる感染です。添付ファイル開封には十分注意してください。
■インターネットなどの怪しいサイトや危険なサイト、不明なファイルなどのダウンロードなどでウィルス感染するものがあります。十分に注意して下さい。

【 Q&A 】

よく質問されるトラブルなどをまとめました。もしもの時に参考にしてみてください。あくまで解決例になりますので、必ずしもトラブルが解消されるものではありません。全てにおいては自己責任でお願いします。

≪Windows 関係のトラブル≫

Q．パソコンの電源が入らない

A．ケーブルが差し込まれているか確認して下さい

電源ケーブルなどがパソコンやコンセントに正しく挿し込まれているか確認して下さい。また、正しく接続されている状態で電源ボタンを押しても、全く反応しない場合や、電源ファンなども動作していない場合、異音が発生する場合などは、故障している可能性がありますので、弊社サポートセンターまでご連絡下さい。

≪キーボード／マウスのケーブルの確認≫
定められた場所にコネクタが挿し込まれているか確認し、再度挿し直してみて下さい。定められた場所にコネクタが繋がっていないと正常に電源が入らない事があります。

≪ディスプレイの電源確認≫
電源は入っていますか？多くのディスプレイは電源が入っていると、電源ランプが点灯し、電源が入っている事を確認できます。一般的に緑、青色に点灯している事が多く、また、赤やオレンジの場合はサスペンドモードになっている可能性があります。マウスなどを動かしてみるなど、サスペンドモードを解除して下さい。

Q．パソコンの電源を入れたのですが Windows が起動しません

A．フロッピーディスクが入ったままになっていないか確認してください

Please Insert Another Disk…
Invalid system disk…
Non-system disk or disk error
Operating「System not found

左のようなメッセージが表示されていたらフロッピーディスクが入ったまま電源を入れている可能性があります。入っていた場合はフロッピーディスクを取り出して再度電源を入れなおして下さい。

「Operating System not found」と表示された場合は再起動をします。再起動はキーボードの「Ctrl」+「Alt」+「Delete」キーを同時に押します。改善されない場合は、弊社サポートセンターまでご連絡下さい。

「Microsoft Windows Startup menu」が表示された場合は、前回の Windows 終了が正常に行われなかった可能性があります。キーボードの「↑」「↓」キーで「Safe mode」を選択し「Enter」キーを押すと「Safe mode」で Windows が起動します。起動したらもう一度再起動してください。再起動後、通常の Windows が起動するはずです。

Q．パソコンを起動したら、勝手にディスクのチェックがはじまった

A．スキャンディスクが終わるまで待ってください

「スキャンディスク」とはディスクのエラーをチェックする作業のことです。Windows の終了作業が正しく行われなかった場合に「スキャンディスク」は起動します。スキャンディスクはキャンセルすることも出来ますがキャンセルした場合、次回の起動時に再び出てくることがあります。また、小さなエラーが大きなエラーに発展する可能性もありますので、必ず「スキャンディスク」が終わるまで待って下さい。
Windows の終了作業は「スタート」→「Windows を終了する」から正しく行って下さい。

Q．Windows が動かなくなった。ソフト（アプリケーション）が止まってしまいました

A．動かなくなったソフトを強制終了させます

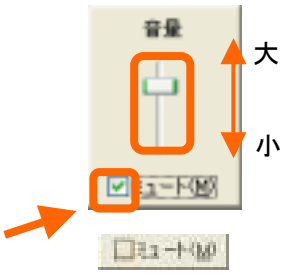
キーボードの「Ctrl」+「Alt」+「Delete」キーを 3 つ同時に押します。「プログラムの強制終了」のウィンドウが開きます。その中の「応答なし」になっているソフトをクリックして「終了」ボタンを押します。ソフトが強制終了して Windows の操作が出来るようになります。
また、ボタンを同時に押しても、「プログラムの強制終了」ウィンドウが出ない場合は、さらにもう一度「Ctrl」+「Alt」+「Delete」キーを３つ同時に押して Windows を再起動させる方法があります。もし、それでもパソコンが反応を見せないようであれば、お勧めは出来ませんが最後の手段として電源ボタンを 5 秒間以上押し続けることでパソコンの電源を切ることが出来ます。この方法で電源を切った場合は次回 Windows 起動時に「スキャンディスク」が起動する場合があります。パソコンが動かなくなってもすぐにコンセントのプラグを抜いたりしないよう注意して下さい。

Q．スピーカーから音が出ない

A．スピーカーの音量（ボリューム）が最低になってないか確認してください

スピーカーのボリュームつまみを上げても音が鳴らない場合は、スピーカーの電源がオンになっているか確認して下さい。また、スピーカーとパソコンがケーブルで接続されているか確認して下さい。それでも音が鳴らない場合は Windows 上の音量が下がっている可能性があります。

デバイスの音量が「ミュート」に設定されてないかどうか確認してください。
「コントロールパネル」→「サウンドとオーディオデバイス」の音量タグで、デバイスの音量にある「詳細設定」ボタンを押して下さい。「ボリュームコントロール」が起動します。「全ミュート」又は、それぞれの「ミュート」にチェックがあったら、チェック部分をクリックしてチェックを外して下さい。それと同時に、音量のつまみが最低になってないかも確認して下さい。



チェックが入っていると音は出ません
チェックを解除して下さい。

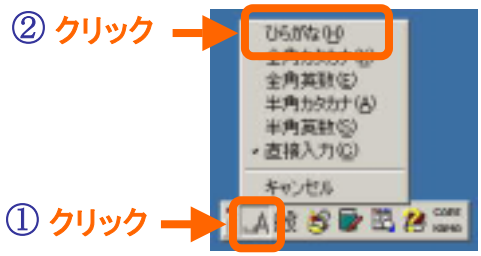
Q．フリーズしてしまい、電源ボタンを押しても電源が切れない

A．電源ボタンを 5 秒以上押しつづけてください

Window が固まり、Windows 操作が全く出来なくなる場合があります。この場合、電源ボタンを押しても電源が切れず電源コードを抜いたりバッテリーを外すことで電源が切れることがあります。電源ボタンを押しても電源が切れない場合、電源ボタンを５秒以上押しつづけてください。

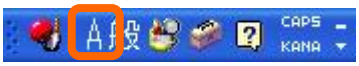
Q．日本語の入力ができない

A．ＭＳ－ＩＭＥツールバーで、文字種類を選択してください



日本語を入力する時は、日本語入力に切り替える必要があります。IME ツールバーの「A」部分をクリックして、メニューから「ひらがな」を選択してください。

■IME ツールバー



IME Standard 2002 Ver8.1

Q．デスクトップからマイドキュメントを消してしまった

A．デスクトップに表示させるように再度設定をし直します

WindowsMe/2000 の場合

1. クスプローラーを起動して「ツール」→「フォルダオプション」をクリック
2. 「表示」タブをクリックして、「デスクトップにマイドキュメントを表示する」にチェックを入れます。
3. 「OK」ボタンをクリックします。

Windows98 の場合

1. 「マイコンピュータ」をダブルクリックして、「C:￥」ドライブをダブルクリックします。
2. 「マイドキュメント」を右クリックして、メニューから「デスクトップに項目を追加」を選択します。

WindowsXP の場合

1. コントロールパネルの「画面」をダブルクリックします。
2. 「デスクトップ」タブをクリックして「デスクトップのカスタマイズ」ボタンをクリックします。
3. 「一般」タブの「マイドキュメント」にチェックを入れて「OK」をクリック。続いて「OK」をクリックします。

Q．インターネット起動時に広告が現れる

A．ＭＳ－ＩＭＥツールバーで、文字種類を選択してください

フリーで配られているソフトをインストールした時や情報を提供する HP などで、通称「スパイウィルス」と呼ばれるウィルスがパソコンに仕込まれる事があります。フリーソフトは無料ソフトですから、その対価として個人情報の収集・サイトの紹介・ソフトのダウンロードを促す広告などが自動で表示される事が多いようです。一般的に呼ばれるウィルスとは異なり、ウィルス駆除ソフトでは検索できず、場合によってはパソコンが不安定、又は起動が出来なくなる可能性もあります。
最近では、ノートンアンチウィルスやウィルスバスターなどの一般ウィルス駆除ソフトでも削除機能を持つようになってきたようです。

フリーソフトでは、「AD-AWARE」や「SPYBOT」という名称のソフトを利用することで、これらのスパイウェアを削除できるようです。
もしや？と思われる方はダウンロードして実行する事によって治る可能性もありますが、必ずしも安全なファイルを削除しているということではありませんので、削除によってパソコンが起動しなくなったり、不具合が起きる可能性もあります。全てにおいて自己責任となります。

■AD- AWARE（海外ソフトのため、表示は全て英語になります）
http://www.lavasoft.de/japanese/software/adaware/
■SPYBOT
http://www.safer-networking.org/

Q．デスクトップの壁紙が変わってしまった

A．画面の設定で壁紙を選択し直します

Windows98/Me/2000 の場合

1. デスクトップ上の何もない場所で右クリックしショートカットメニューの［プロパティ］をクリックします。
2. ［背景］タブをクリックし、［壁紙に使用する画像や HTML ドキュメントを選択してください］ボックスの一覧から任意の画像をクリックします。
3. ［適用］をクリックし、画面の背景が変更されたことを確認します。
4. 背景に表示された画像でよければ、［OK］ボタンをクリックします。

WindowsXP の場合

1. デスクトップ上の何もない場所で右クリックしショートカットメニューの［プロパティ］をクリックします。
2. ［デスクトップ］タブをクリックし、［背景］ボックスの一覧から任意の画像をクリックします。
3. ［適用］をクリックし、画面の背景が変更されたことを確認します。
4. 背景に表示された画像でよければ、［OK］ボタンをクリックします。

Q．デスクトップにショートカットを作成したい

A．画面の設定で壁紙を選択し直します

1. デスクトップ上の何もない場所で右クリックします。
2. ショートカットメニューから[新規作成]にカーソルを合わせて、「ショートカット」をクリック。
3. [参照]ボタンをクリックして、ショートカットを作るファイルを指定します。
4. “ファイルの参照”画面でファイルをダブルクリック又は、「開く」ボタンをクリックします。
5. “ショートカットの名前を指定してください”は名前を変更する場合に入力します
6. [完了]をクリック

Q．データをフロッピーディスクへ移動／コピーしたい

A．やり方は何通りもありますが、そのうちの一つを説明します

移動

1. 移動元のデータを右クリックし、ショートカットメニューの[切り取り]をクリックします。
2. フロッピードライブにフロッピーディスクを挿入します。
3. デスクトップの[マイコンピュータ]をダブルクリックし、続いて[3.5 ｲﾝﾁ FDD]をダブルクリックします。
4. フロッピーディスクの内容が表示されていることを確認します（データがある場合）
5. メニューから[編集]をクリックします。
6. [貼り付け]をクリックします。
7. データがフロッピーディスクに移動されます。

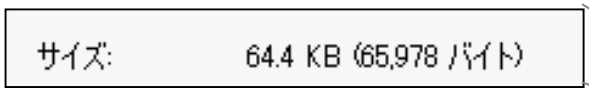
コピー

1. 移動元のデータを右クリックし、ショートカットメニューの[コピー]をクリックします。
2. フロッピードライブにフロッピーディスクを挿入します。
3. デスクトップの[マイコンピュータ]をダブルクリックし、続いて[3.5 ｲﾝﾁ FDD]をダブルクリックします。
4. フロッピーディスクの内容が表示されていることを確認します（データがある場合）
5. メニューから[編集]をクリックします。
6. [貼り付け]をクリックします。
7. データがフロッピーディスクにコピーされます。

Q．データのサイズ(容量)を調べたい

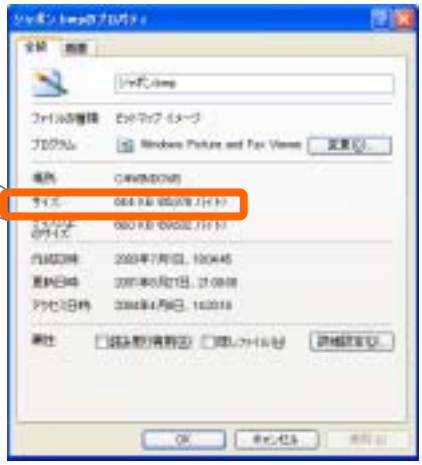
A．容量を調べたいデータまたはフォルダを右クリックし、メニューから「プロパティ」をクリックします

プロパティウィンドウが開いたら、[サイズ]項目を確認します。



この場合、サイズが[64.4KB]となります。

■IME ツールバー



1MB = 約 1000KB
になりますので、フロッピーディスク 1 枚分 1.44MB から考えると
1440KB(1.44MB) ÷ 64.4KB = 約 22.3
なので、フロッピーディスク容量の約 22 分の 1 程度の容量ということになります。

Q．デスクトップのアイコンが移動できなくなった

A．アイコンが自動整列に設定されています

デスクトップを右クリックして「アイコンの整列」をクリックし、「アイコンの自動整列」にチェックが入っていないかどうか確認してください。

Q．インターネットエクスプローラー起動時のスタートページが変わってしまった

A．インターネットエクスプローラーの設定で、スタートページを変更します

1. インターネットエクスプローラーを起動します。
2. メニューバーの「ツール」クリックしてから「インターネットオプション」をクリックします。
3. 「全般」タブをクリックで選択します。
4. 「ホームページ」欄の「アドレス」欄に、スタートページにするホームページの URL（笑栄システムのトップページの場合は http://www.shoei-sys.co.jp）を入力します。
6. 「OK」ボタンをクリック。

Q．タスクバーが画面の上部(または右側、左側)へ移動してしまった

A．タスクバーはマウス操作だけで移動できるので、いつの間にか別の場所に移してしまうことがあります。

標準では画面の下部にタスクバーは表示されています。マウス操作によって自由に移動する事が可能です。タスクバーを移動させるには次の操作を行います。

1. タスクバー上にマウスポインタを合わせます。
2. マウスをクリックしたまま、画面の右端または、上、左端へドラッグして動かします。

※ WindowsXP の場合はタスクバーが固定されていて移動できない場合があります。移動できない場合は、タスクバー上でマウスを右クリックして、メニューより「タスクバーを固定する」にチェックが入っている場合は、クリックをしてチェックを外してからタスクバーの移動作業を行って下さい。

Q．Outolook Express 6 で添付ファイルが開けない

A．設定を変更して、ファイルが開けるようにする

Outlook Express 6（以降 OE6 と表現します）で、受信したメールの添付ファイルが「次の添付ファイルは安全でないためメールからのアクセスが削除されました」と表示され、開いたり保存できないことがあります。
これは、OE6 のセキュリティ機能によるものなので、以下の設定を確認してください。

1. OE6 を起動します。メニューバーの［ツール］−［オプション］をクリックします。
2. ［セキュリティ］タブにある「ウィルスの可能性がある添付ファイルを保存したり開いたりしない」にチェックされている場合は解除して「OK」をクリックします。

ただし、添付ファイルは決して直接開いたりせず、ファイルとして保管してウィルスチェック後に開くことをお勧めします。

Q．最小化・最大化ボタンが数字になってしまう

A．フォントキャッシュが破損している可能性があります

TtfCache フォントキャッシュファイル、または、Marlett フォントが壊れている可能性があるので、はじめに TrfCashe フォントキャッシュファイルを削除します。「スタート」→「検索」から、TtfCashe ファイルを検索します。検索された TtfCashe ファイルを削除します。削除すると、次回再起動時に再作成されます。
もし症状が改善されない場合、セーフモードで再起動後に同じ操作を行ってください。

Q．Internet Explorer のスタートページが勝手に変更されてしまう

A．スパイウェアに感染してしまっている可能性があります

スパイウェアに感染すると、IE のスタートページが書き換えられてしまうことがあります。この場合、何度修正しても書き換えられてしまうことがあるため、スパイウェアを駆除するしかありません。弊社サポートセンターまでご連絡下さい。

Q．デスクトップが１６色で表示され画面がいつもより小さい

A．ディスプレイドライバが破損している可能性があります。

ディスプレイドライバの再インストールが必要な可能性があります。もし分からない場合には、弊社サポートセンターまでご連絡下さい。

Q．ホームページが文字化けしてしまう

A．ブラウザの文字コードを変更します

ホームページの文字コードは、一般的に EUC で書かれています。なので、ブラウザの文字コードは日本語（自動判別）もしくは日本語（EUC）に設定されていないと文字化けすることになります。

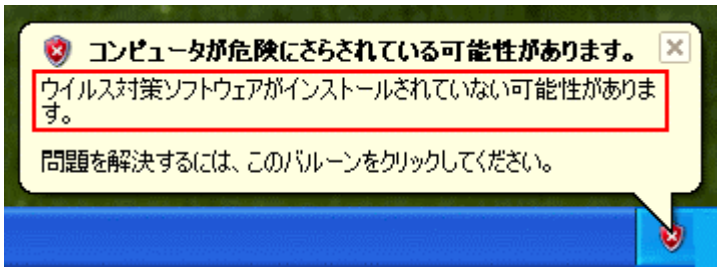
■ 文字コード変更手順

・Internet Explorer
　１．インターネットエクスプローラーを起動します。
　２．ファイルメニューの「表示」→「エンコード」を選択します。
　３．日本語（自動判別）もしくは、日本語（EUC）を選択します。
・Netscape
　１．ネットスケープを起動します。
　２．ファイルメニューの「表示」→「文字コード」を選択します。
　３．日本語（自動選択）もしくは、日本語（EUC）を選択します。

Q．「コンピュータが危険にさらされている可能性があります」と表示される

A．ウィルス対策ソフトや、ファイアーフォールソフトウェアが認識されていません

Windows XP Service Pack 2 からの新機能で、「Windows セキュリティセンター」により、パソコンのセキュリティがチェックされ、問題のある場合にこのバルーンが表示されるようになっています

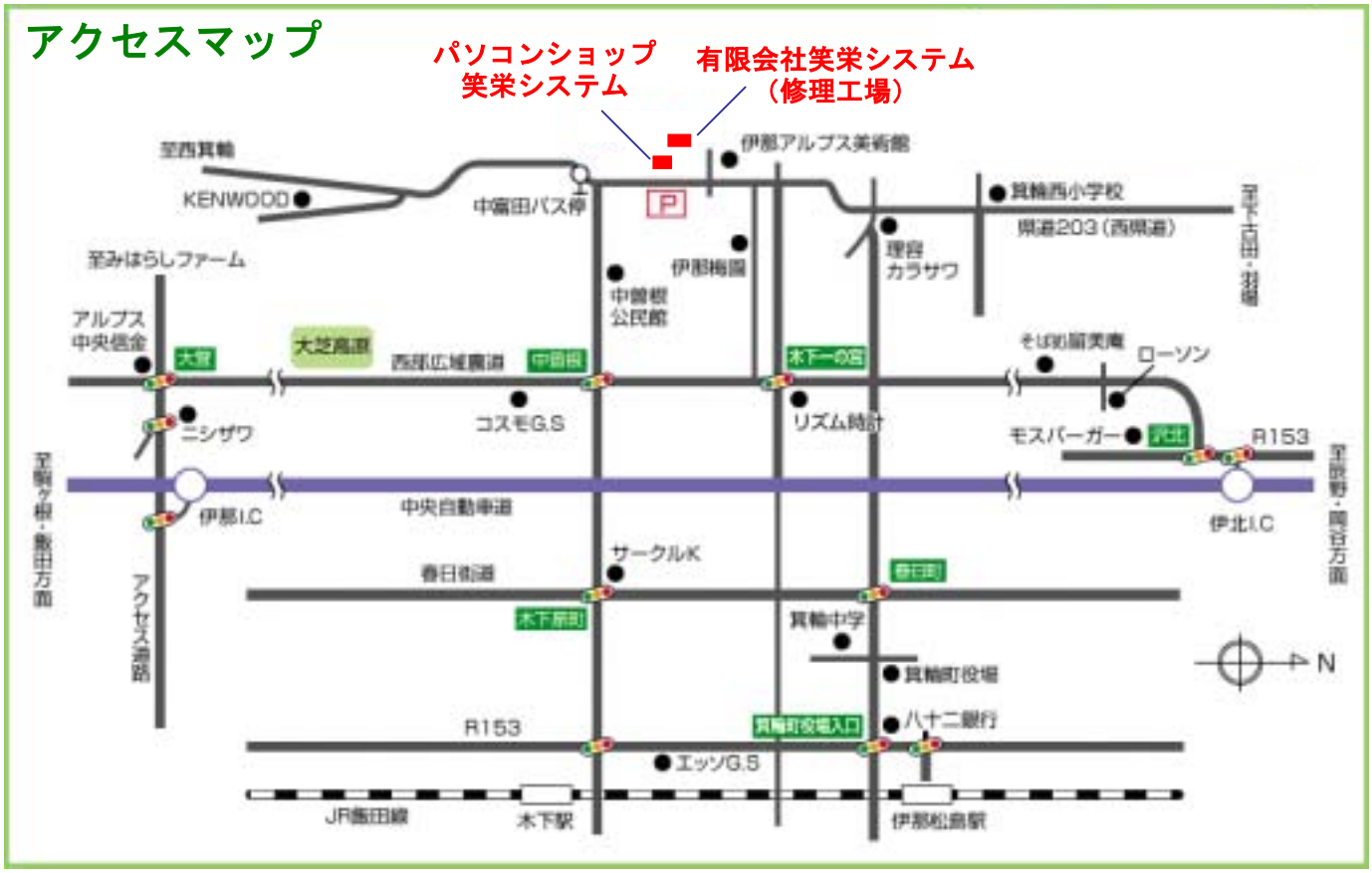


ウィルス対策ソフトウェアがインストールされていない場合や状態が確認できない時に表示されます。

＜対策方法＞
■ウィルスバスター「トレンドマイクロ・TrendMicro」やノートンアンチウィルス（symantec）といったウィルス対策ソフトを入れる事で解決させる事が出来ます。
■強制的にバルーン表示を無効にします。
　１．「スタート」→「コントロールパネル」の順にクリック
　２．「セキュリティセンター」をダブルクリック
　３．「ウィルス対策」の「推奨される対策案」をクリック
　４．「自分でウィルス対策ソフトウェアをインストールし、管理します」にチェックをつけて、
　　「ＯＫ」ボタンをクリック

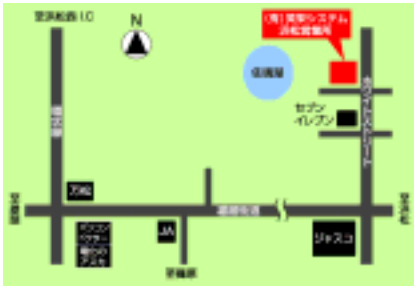
サポートダイヤル　0265-70-1027

アクセスマップ



有限会社笑栄システム

営業時間　AM10:00～PM8:00　毎週水曜日・毎月第３日曜日定休
〒399-4601 長野県上伊那郡箕輪町中箕輪富田 14775-4
本社：TEL.0265-70-1027・FAX.0265-70-1028
ショップ：TEL.0265-79-6988



浜松営業所地図

営業時間
AM10:00～PM7:00
毎週水曜日・毎月第３日曜日定休
〒432-8021 静岡県浜松市佐鳴台 6-10-19
TEL.053440-4579・FAX.053-445-0123

オリジナルパソコン・周辺機器・販売・修理・サポート

DOS/V Proショップ

有限会社 笑栄システム